

登録文化財を活かす事業報告

学校教育における登録文化財の活用について



2010年8月

大阪府登録文化財所有者の会

登録文化財を活かす事業報告

学校教育における登録文化財の活用について

目 次

I	学校教育における登録文化財の活用——事業の概要	P 2
	(1) 事業名称等	P 2
	(2) 事業の目的	P 2
	(3) 事業活動とその支援組織	P 2
	(4) 事業の成果	P 4
	(5) 今後の課題と問題点	P 6
	(6) これからの展開	P 7
	(7) その他	P 7
II	学校教育における登録文化財の活用——それぞれの事業内容の詳細	P 8
1	畑田家住宅	P 8
1-1	畑田家住宅見学とおしゃべり会	P 8
1-2	「古い日本住宅に見られる生活の工夫」についての出前授業	P10
1-3	子どもと先生の感想・意見	P12
2	山田家住宅	P15
2-1	山田家住宅—大学生のさつま芋掘り体験	P15
2-2	山田家住宅—むかしのくらし社会見学	P23
3	小谷城郷土館	P25
3-1	小谷城郷土館—昔のくらしと道具の見学と体験学習	P25
4	寺西家住宅	P27
4-1	親と子の落語の集い	P27
5	兒山家住宅	P33
5-1	兒山家住宅—東陶器ステキ発見	P33
5-2	兒山家住宅—ナヤ・ミュージアム見学と堆肥作り体験	P35
6	南川家住宅	P37
6-1	南川家住宅—小学生の昭和初期の生活体験学習	P37

*それぞれの事業はおおむね次の項目に分けて記述されています。

- 1 事業の概要
- 2 とりくみのきっかけと今後の方針
- 3 子どもと先生の感想・意見に学ぶ
- 4 所有者・実施担当者の所見
- 5 子どもと先生の感想・意見

登録文化財を活かす事業報告

学校教育における登録文化財の活用について

大阪府登録文化財所有者の会

2010年8月

I 学校教育における登録文化財の活用―事業の概要

(1) 事業名称等

[事業名称] 学校教育における登録文化財の活用について

[実施団体] 大阪府登録文化財所有者の会

[活動を行った文化財の名称]

畑田家住宅（羽曳野市）、小谷城郷土館（堺市）、兒山家住宅（堺市）、南川家住宅（貝塚市）、山田家住宅（泉南市）、寺西家住宅（大阪市）

[事業経費] 1150,000 円 （内文化庁委託費 999,000 円 事業費）

(2) 事業の目的

現在の我々の生活は、非常に便利になった。50 年程前は、スイッチ一つで家事をしてくれる機器はなく、人が体を動かし工夫をしながら生活していた。そこでは、現在とは異なり、在るものを、いかに大切に使い長持ちさせるかという知恵が働いていた。現在の便利な生活は、それぞれの分野での工夫と努力の積み重ねの結果ではあるが、これらの経過を、今一度、振り返り、循環型社会の構築と地球環境の保全を熟考することは喫緊の課題である。



山田家住宅 庄屋屋敷の説明

本事業の目的は、次世代を背負う子供たちに登録文化財建造物での昔の生活の体験を通じて、物にも命があることを理解してもらい、古い物を大切に作る心を芽生えさせ、伝統文化継承の心を養わせるとともに、児童や先生へのアンケート結果などをもとに、登録文化財建造物の持つ教育力、すなわち住育の力とその教育的効果を実証することである。

(3) 事業活動とその支援組織

事業活動名とその実施支援組織は、次の通りである。事業活動は延 19 日間にわたり、児童 1274 名、教員及び PTA 関係者 98 名の参加があり、事業の実施関係者は 98 名であった。

①古い日本住宅に見られる生活の工夫についての小学校への出前授業とその児童達の

畑田家見学・体験学習会

(畑田家住宅活用保存会)

2 小学校、4 年生 6 クラス延べ 347 名、教員延べ 11 名、実施関係者延べ 9 名

②大学生による豪農庄屋でのさつま芋づくり体験と小学生の山田家見学学習会

(山田家住宅保存活用協議会、泉南市婦人連絡協議会)

大学生 32 名、教員 1 名、実施関係者 7 名

小学校 3 年生 2 クラス 81 名、教員等 3 名、実施関係者 5 名

③小学生の昔のくらしと道具の見学ならびに体験学習会 (財団法人 小谷城郷土館)

小学校 3 年生 5 クラス 144 名、教員等 10 名、実施関係者 17 名

④小学生の昔の暮らしと道具の見学ならびに堆肥づくり等体験学習会

(兒山家住宅：ナヤ・ミュージアム)

2 小学校 3 年生 7 クラス 311 名、教員等 14 名、実施関係者 29 名

⑤親と子の古典落語鑑賞会

(寺西家住宅：田辺寄席、どっぴり昭和町実行委員会)

小学生等 28 名、保護者等 34 名、実施関係者 10 名

⑥小学生による昔の暮らしと道具の見学ならびにつるべ汲み等体験学習会

(南川家住宅：NPO 法人 摂河泉地域文化研究所、北小学校ふれあいルーム、貝塚町家クラブ)

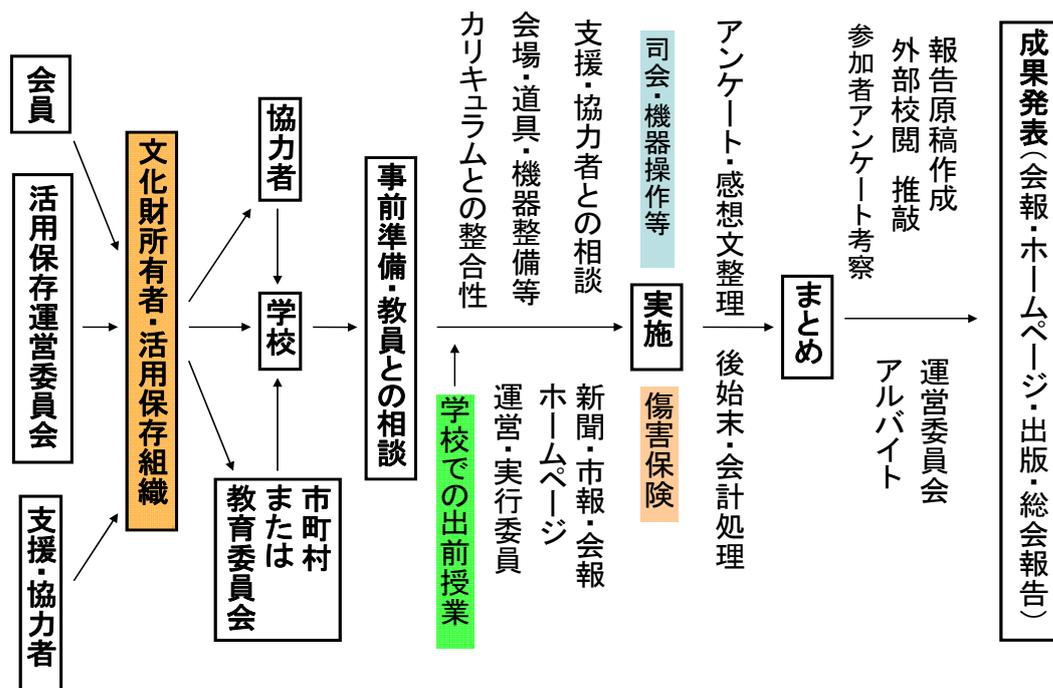
3 小学校 3 年生 331 名、教員等 25 名、実施関係者 21 名

登録文化財の学校教育への活用活動

活動のフローシートを下図に示す。活動を行うには、先ず、学校との協力体制をしっかりと構築する必要がある。市町村またはその教育委員会を通じて連絡を取るのが原則であるが、普段からお付き合いがあれば、特定の学校の校長先生と直接連絡するのもよいし、学校と親しい知り合いに仲介を頼むのも一つの方法である。学校と連絡がつけば、校長先生あるいは活動の担当の先生と授業の期日、内容、方法などについて具体的に相談して、授業の実施に備えることとなる。この際、自らが行う授業が、学校のカリキュラムの中でどのような位置づけになっているのかを良く理解しておくことが大切である。授業が、家の見学や昔の生活の体験というような学外で行うもの場合は、その前に学校の教室で予備知識を与える授業を行っておくと、生徒の学びの効果を高めることができる。また、学外での授業では、参加者に傷害保険をかける必要があるかどうかを学校側に確認しておく必要がある。

授業が不特定の学校の生徒・学生を対象とするもの場合は、その実施を周知して、参加者を募らねばならない。そのメディアとして、新聞、ホームページのほか市町村の広報誌の協力

文化財所有者、活用組織と学校との協力体制ならびに成果報告



はぜひとも得たいものである。

授業の実施に当たっては、機器の使用なども含めて学校、市町村、その他の関係者の協力が必要なことは言うまでもないが、実施後の結果・成果のまとめと分析の際にも、これらの関係者の協力の得られることが望ましい。それぞれの授業の成果の分析結果の公表は、文化財活用の輪を広げて、登録文化財活用保存の社会的意義と重要性を国民に周知し、文化立国を目指す日本の平和な繁栄につながるものと確信している。

(4) 事業の成果

生徒・教員の意見や感想ならびに事業活動関係者の意見を集約すると、本事業は大略次のような成果を上げたと考えられる。

①物にも命があることへの理解と物を大切にすることの心・勿体ないと思う心の育成

子供たちは「昔の人は、火消壺で消し炭をつくって薪の燃え殻を再利用したこと」、「うんこも肥料にしたこと」などへの驚きを感想文に記しており、彼らが物を大切にし、再利用することの重要性をよく理解したことを示している。また、「昔の家は、すぐにつぶれると思っていたが、120年も前の建物でも丈夫だということが分かった」、「100年を超えた古い家やいろいろな工夫をした道具は日本の宝物」などの感想は、子供達が伝統的木造住宅を見学・体験することで、古いものはすべて悪くて壊れやすいというような誤解を改め、古い家や昔の生活の工夫の価値を正確に認識しはじめていることを物語っている。

②昔の生活に見られる工夫とそのための努力を考えることによる想像力の育成

子供達は、昔の生活の知恵として、「ネズミ返し」、「床下貯蔵庫」、「がندوق」、「風呂敷」、「屋根裏や中2階の活用」などに触れて、その工夫の素晴らしさに驚き、どの様にしてこんなことを思いついたのだろうと、考える。子供たちの「昔のものをあまり知らなかったので勉強になった」、「風呂敷はどんな形のものでも包めるし、ポリ袋のように使い捨てでなく、何年も使える」、「風呂敷で包んで持ち歩きたい」などの子供達の意見を聞いて、小学校の先生は、「昔の人々の知恵が生み出したものをいつまでも大切にすることを彼等とともに確認することができました。今後、子供たちが生きていく上での大切な経験ができたと思います」との感想を洩らし、古い民家での体験が、子供たちが色々なことを学習し考えるうえで大きな影響を受けたことを認めている。昔からの構造・機能・生活の工夫に溢れる古民家が、子供に、人文、社会、自然科学の根源の力である想像力を養わせることに役立つ場であることが分かる。

③昔の道具の変遷を知ることによる、歴史を学び、未来を拓く心の育成

「今まで店で買って食べていたサツマイモが、こんなに手がかかっているのだと、初めて分かりました」という大学生の意見や、「数々の道具が生活のために人々が生み出してきた大切な宝物であり、工夫された家の構造も昔の人々の知恵が作り出した素晴らしいものだ」と子供達が気づくよい機会でした」、「永く生きてきた家の存在感や、そこに住んで生きてきた人々の生き方や歴史、生活の工夫を強く感じました。現在の私たちが便利さとの引き換えに失くしてきたものの多さを思いました。子どもたちのやわらかい感受性が受け取ったものは、実際に触れることで、体のどこかにきつと残ると思います」という小学校の先生の意見は古い家での体験が、若者に歴史を学び、未来を開く力を与えることを示している。

④伝統的建築物は新しい発見の場、自然と融合し歴史と文化を伝える学びの場

昔の家は、「畳の部屋ばかりで廊下が無い」、「広い庭がある」、「庭に木がなぜいっぱいあるのか」など子供達の素直な感想・質問や「子供達は、自分が今住んでいる家と比べて、昔の家のよさに気付いたり、昔の家に住んでみたいと思ったりして、昔は家が大切にされてきたことを実感できたようです」という小学校の先生の意見、さらには「古い家で落語をするのは、ホールより温かみがあって良い」という子供の意見は伝統的木造住宅が落ち着いて温かく、自然と融合した歴史と文化を伝える場であることを示している。古い日本の木造住宅が素晴らしい学びの場であることは、過去 10 年間にわたる畑田家住宅での教育・文化フォーラムに参加した人たちの感想・意見、すなわち、「落ち着いてゆったりとした気持ちで聞ける」、「じっくりと考えながら学べる」、「土壁と木のぬくもりを感じられる雰囲気なので、学びの吸収が良い」、「講師と聞き手との距離が手を伸ばせば届くほど近く、同じ目線で学べるのが良い」、「先祖の生き方を残している住空間の中で、先人の生活態度を感じつつ話が聞けるのが有意義である」などからも、明瞭に読み取れる。

山田家での芋掘り体験に参加した大学教授は、「農家の苦労を感覚的に捉え、日本の農と食を考えることを通して、観光学の授業の実践の一つであるグリーンツーリズムの企画能力を学生が養うのに役立った。婦人会の皆さんとの交流も地域を理解する上で重要である」と、昔型の農作業体験の大学の授業への効用を語っている。古民家とそれにかかわる自然環境が大学生にとっても格好の学びの場であることを示す一例である。

⑤古い日本住宅は地域が協力して共同社会をつくる拠点

日本が真の民主主義国家として世界の平和に貢献できる国になるには、地域社会において日本と世界にかかわるいろいろな問題を考え、議論することのできる場の構築が必須である。「婦人会の人が作ってくれた美味しい芋の味噌汁を頂くと、心の芯から温まりました」という大学生の感想、「親と子供が、同じ落語を聴くことによって、伝統芸能に対する共通の話題ができた」という子供の保護者の意見は、古民家が今も地域の社会活動の拠点たり得ることを示している。今も、地域に残る古民家が④に述べた学びの場としての特徴を最大限に生かして、地域社会での情報・意見交換と情報発信、そして、可能な限り教育文化活動の実行の拠点となることを期待したい。

⑥古い日本住宅は住育の場

「畑田家の古き良き道具や昔の人の工夫を見せながら、「なぜ、そうなるのか」、「本当にそうなのか」と疑えと指摘して下さったことが、とてもありがたく心に残っています。教師は、教えるのではなく、問いかけるのが仕事・・・子どもたちがわくわくし、問題を解決してみたくなる問いかけに苦戦する毎日です」、「私自身も昔の人々の生活や道具は、未知の世界だったので、子供



見山家で唐箕を使う

と一緒に学びました」という先生方の感想は、古民家が想像力を養うための、もう一つの教室として機能することを示唆している。

⑦古い日本住宅の特徴とは？—それは子供たちにとってエキゾチックな存在かもしれない

畑田家住宅活用保存会の統計によると、畑田家を訪れた成人は古い日本住宅の特徴を次のように捉えている。すなわち、「天井が高く、ゆったりとした気分が味わえる」、「家としての温かさがあり、人間との一体感がある」、「長い間、人が住み継いできた人間的な温かさと自然との一体感を持つ、落ち着いた空間である」、「日本文化を知り、日本人の知恵・工夫を感じ、家族の和を大切にできる温かさのある空間である」、「個々の部屋の単なる集まりでなく、家族全体のコミュニケーションのとり易い空間である」、「建物を少しでも長く持たせようとする工夫が読み取れる」、「長い間の経験をもとに、考え抜いて造られた哲学のある空間である」、「ゆっくり物事を考えたり、集中して事を行うのに適している」、「文化の伝承と創造を支援することの出来る雰囲気を持っている」などである。



これらは日本人としての個性を確立した成人の感覚であるが、最近、畑田家を訪問する小学生から、「この家にはどうしてこんなに広い庭があるのか」とか、「庭に大きな松の木が3本もあるのはなぜか」というような質問を受けることが多くなってきた。このような現象を、武者小路千家の千宗守家元は「古い木造住宅は子供達にとって、非日常的というよりは、むしろエキゾチックな存在になりつつあるのだ」と指摘する。本文書の編集者の一人畑田も全く同感である。子供たちは外国旅行には興味を示すはずである。日本の古民家が子供たちから遠い存在になりつつあると嘆くよりは、子供たちのこの感覚を上手に利用して、彼らを伝統的木造住宅に惹きつけ、文化財を大切にすることを養わせ、歴史・道徳教育の重要な手法の一つにするよう努力したいと思う。（「武者小路千家第14代家元 千宗守『お茶と日本人の心』畑田家住宅活用保存会出版 No.8」参照）。

(5) 今後の課題と問題点

上の述べた事業の成果から導かれる今後の課題や注意点を次に示す。

- ①それぞれの登録文化財で行われている取り組みは、古民家の探検とそこに見られる生活の工夫についての授業、昭和前期の生活スタイルの再現とその実体験（井戸水のツルベや手押しポンプによる汲み上げ、蚊帳を吊って中に入る、組紐で葉をつくる等）、わが国の伝統芸能である古典落語を子供と親に聞かせる会など、聞いて、見て、考えるだけではなく、実際に体験するものまで、多種多様で幅が広い。これらを総合化、複合化して、伝統的木造住宅の様な文化財の存在意義、すなわち、文化財がどのようにして世界の文化と平和の深化に貢献できるのかを、子供たちに、より分かり易く語りかけられる方法の開発を目指すことが今後の課題の一つである。
- ②旧集落にある学校と新興住宅地にある学校とでは、児童の興味の対象や意識が違う場合があ

る。このような点についても配慮が必要である。

③先生自身にも古民家についての体験のある人は少ないので、活動についての先生との事前打合せで、この点について十分配慮することが、活動の効果を上げるうえで必要不可欠である。

④古民家周辺での農作業とのかかわりでは、堆肥づくりや、芋の苗の植え付け、収穫、それをかまどで蒸かして食べながらの談義などを通して、自然との触れ合いと環境・再利用の問題を体験的に捉えられたようであるが、このような、作業全体に参画することが不可能なケースは、その中の、どこに関わらせるかを、慎重に考える必要がある。

⑤上記の我々の多様な取り組みを如何にして継続していくかを、人材的、予算的な面から慎重に考えるのが今後の最大の課題である。

(6) これからの展開

①文化財建造物の住育の力を活用した文化・教育活動を広く展開するために、活動の成果を印刷物やホームページなどで公表し、活動の必要性を他の登録文化財所有者に働きかける。

②古民家の住育力の活用を一層推進するために、登録文化財建造物そのものの数の拡大に努める。また、住育力の活用の対象を、子供の保護者、一般市民に広げて、国民皆学社会の成長を促す生涯学習支援への展開を図る。

③登録文化財の活用を通じて、その存在価値を市民に訴え、理解を求めるとともに、その活用のための費用はもちろん、維持管理の費用についても、行政を含めて地域社会全体の課題として考えていく必要がある。そのためには、国民全体が文化財の社会的意義を良く理解し、文化財所有者の活用保存活動を支援してくれることが必要である。わが国の文化レベルの低下につながる文化財の消滅を防ぐには、ある程度の公費の投入は不可欠である。「そのような予算は不要不急である」という意見は、「将来、国が亡びることを防ぐ費用など不要不急である」というに等しいことを、市民は理解して欲しいと思う。

今回の事業で、対象を主として小学生としたのは、文化財を大切に作る心の養成は、いろいろなことに比較的満遍に好奇心、興味、関心を示す小学校の時から働きかけるのが重要と考えたからに他ならない。小学生への働きかけは、上に述べた古民家のエキゾチックな性質も活用して、鋭意努力するつもりである。

④古い木造民家での講演会・フォーラムに参加した人たちは、日本の古民家は次のような場を提供できる建築物であると考えている。すなわち、「日本の文化・教育のことを考える場」、「昔の『寺子屋』や『いろり』のような空間」、「いろいろな時代の日本人の心と体の動き・生活様式を今の人に伝える場」、「赤ちゃんから老人までが集まれる地域の触れ合いの場、生涯教育の場」、「日本住宅の工法について考える場」、「伝統的な日本住宅をよく分析して、それをもとに平成の日本住宅のあり方を考える機会を提供する場」などである（畑田家住宅活用保存会統計資料より）。これらの意見は、古い日本住宅が学校教育では行いにくい部分を補完する場として、また、「これからの日本の民家建築はどうあるべきか」を考えるための場ならびに資料としても役に立つことを示している。登録文化財建造物をこのような観点から社会に役立てようとする努力は、その所有者の重要な使命の一つと考え、今後も努力するつもりである。

(7) その他

このような登録文化財活用事業の継続的な実施を、次の世代にどのように繋いでいくかが、文化財の保存と併せて国や行政の文化伝承上の大きな課題である。

Ⅱ 学校教育における登録文化財の活用—それぞれの活動内容の詳細

以下に、それぞれの文化財における事業活動の詳細な内容を、事業の概要（事業の実施日と参加者、事業の実施方法、子供たちに特に伝えたかったこと）、取り組みのきっかけと今後の方針、子供と先生の感想・意見に学ぶこと、所有者・実施担当者の所見、子供と先生の感想・意見に分けて記す。

1 畑田家住宅

1-1 畑田家住宅見学とおしゃべり会

1-1-1 事業の概要

事業の実施日と参加者

羽曳野市立丹比小学校 平成 21 年 9 月 14 日実施

4 年生 3 クラス 137 名、担任教員 3 名

羽曳野市立植生南小学校 平成 21 年 9 月 17 日実施

4 年生 3 クラス 105 名、担任教員 3 名、副担任 1 名、計 4 名

事業の実施方法

1) 学校から徒歩で到着した 3 クラスの生徒を、①田の字型平面、座敷、上がり框を含む主屋の室内、②屋内の納屋、土間、台所、竈などの区画、③付属屋（井戸、風呂、便所）、長屋門、蔵、納屋、庭、土塀などの区画、の三箇所を順次廻らせて、畑田家当主、畑田家住宅活用保存会会長、同副会長あるいは幹事が、それぞれ、家の構造、部屋や道具の機能について説明した。

2) 見学・説明終了後、全員が庭に集合し、上記三つの場所での質問以外の総合的な質問や意見交換を行なった。

3) 時間が全体で 90 分あまりと短かったので、質問や意見が十分に聞けたとはいえ、感想・意見の提出を教員、生徒にお願いした。

子供たちに特に伝えたかったことなど

古い木造住宅の構造や家の中で使われていた道具類の話をしつつ、次の諸点を伝えることに留意した。

①家にはそこで暮らしてきた人たちの工夫が一杯詰まっている；

②人は家を通して、そこに住んできた人々の歴史を含めて、いろいろなことを知ることができる；

③日本の伝統的木造家屋は人が生きていくうえで大事な「想像力」と「勿体ないと思う心」を養える場所であることを、畑田家での昔の生活、家の構造、昔の道具、天井や柱などの木目、何に使ったのか判然としない空間などの見学を通して理解させる。

1-1-2 とりくみのきっかけと今後の方針

文化財の活用保存の仕事に関わるようになって、一般市民の文化財への関心を一層高めることの必要性を痛感するようになり、そのためには、小学生の頃から、文化財について学ばせることが必要であると思うようになった。一方、小学校や中学校でも、総合的な学習や社会科の「昔の暮らし」の学習などで、昔の庄屋屋敷で伝統的木造住宅である畑田家住宅での体験学習の要望があり、両者がうまく合致する形で実現した取り組みである。

したがって、この活動は、文化財の活用・保存にとどまらず、子供達の「文化を大切にし、これを未来に繋ぐ心」を養ううえで是非とも必要なことであり、特に、感性、好奇心旺盛な小学生に、

「文化を大切にし、これを未来に繋ぐ心」をしっかりと植えつけるために、今後も続けて行く覚悟である。人が生きていくうえで最も重要な根本的理念ともいべき文化を大切にする心は、しかし、子供の年齢が進むにつれて、受験勉強なども含めて、社会のいろいろな煩雑なことにまぎれて、薄らいでいく傾向がある。そのようなことにならないためにも、小学校時代に「文化を大切にし、これを未来に繋ぐ心」をしっかりと植えつけておきたいと思うのである。

1-1-3 子供と先生の感想・意見に学ぶ

子供達からは、昔の家は、「畳の部屋ばかりで廊下が無い」、「広い庭がある」、「庭に大きな木がいっぱいあるの」など子供達の素直な感想を聞くことができた。また、昔の生活の知恵として、「ネズミ返し」、「床下貯蔵庫」、「がندوق」などに触れ、その工夫に驚くとともに、昔の人は、「火消壺で消し炭をつくって薪の燃え殻を再利用したこと」、「うんこも肥料にしたこと」など物を大切にしたということを理解したようである。



がندوق

「昔の家は、すぐにつぶれると思っていたが、120年も前の建物で丈夫だと思い直した」、「100年を超えた古い家やその中のいろいろな工夫をした道具は日本の宝物」などは、子供から聞く感想としては、大変嬉しいものである。

「古き良き道具や昔の人の工夫を見せながら、“なぜ、そうなるのか?”、“本当にそうなのか?”と疑えと指摘して下さったことが、とてもありがたく心に残っています」、「私自身も昔の人々の生活や道具は、未知の世界だったので、子どもと一緒に学びました。子供達は家を見学することで授業でのイメージを膨らませることができたと思います。畑田さんに話していただいたことを、今後の指導に活かすよう精進します」、「現在の私たちが便利さと引き換えに失くしてきたものの多さを思いました。子どもたちのやわらかい感受性が受け取ったものは、実際に触れることで、体のどこかにきつと残ると思います」、「子供達は、自分が今住んでいる家と比べて、昔の家のよさに気付いたり、昔の家に住んでみたいと思ったりして、日本の古い家が大切にされてきたことを実感できたようです。数々の道具が生活のために人が生み出してきた大切な宝物であり、工夫された家の構造も昔の人々の知恵が作り出した素晴らしい物だと気づくよい機会でした」などの先生方の感想やご意見は、今回の出前授業と見学・体験学習会の大きな効果を物語っている。

出前授業を含めた、畑田家住宅見学・オシャベリ会の感想文と教員の意見の詳細は、II章、1-3小節を参照していただきたい。

1-1-4 所有者・実施担当者の所見

子供たちが文化財建造物に接する機会をつくり、理解を深めてもらうことは、文部省の「文化や伝統を大切にする心を育てる」と題する小学校の道德教育の手引き書にも記されている通り、日本の将来を担う子供たちの文化財への理解を深め、日本文化の深化に貢献できる市民を一人でも多く育てるために、是非とも必要である。この様な観点から、子供達の伝統的木造住宅見学会の教育効果について、以下に、若干の意見を述べる。

①子供たちの質問や感想文から、古い伝統的木造住宅は、今の子供にとっては、非日常的というよりは、むしろエキゾチックなものであることが伺える。I章、(4)節にも述べたように、この点を

上手に利用して、彼らを伝統的木造住宅に惹きつけ、それを通して文化財を大切にすることを養わせるのは、歴史・道徳教育の大事な手法の一つになると思われる。

②丹比小学校と埴生南小学校が存在する地区は、戦後に田園地帯に新しい住宅が建てられ、人口が著しく増加したところである。これらの二つの小学校の校区には環境に若干の違いがあり、前者は、後者に比べて、旧村の古い民家が多く、通学路の街並み・景観が両者でかなり異なっている。興味深いことは、これら二つの校区から学校に通う子供たちはその殆どが新しい住宅に住んでいるにもかかわらず、その感想文に若干の相違が認められることである。すなわち、古い家でも内部は便利に改良されて、昔の構造や道具は消滅しているところが多い所為か、畑田家での新しい発見についての記述数は、両校の生徒であまり変わらないが、勿体ないと思う心の発現が丹比小学校に多く、想像力の発現は埴生南小学校に多い点である。この原因の理解にはさらに詳細な検討が必要ではあるが、この様に家庭・地域環境の違う子供達が共に学ぶ環境を作ること、教育上大事なことも知れない。

③畑田家に来たある韓国人が、「畑田家で見える古い道具類は、たとえ埃にまみれていても、博物館にきれいに整理して並べてあるものと違って、生きている」と言ったことがある。この古民家の生きた博物館としての機能は、今後とも子供達に最大限に利用して欲しいと思っている。

④文化財の活用は、その種類や存在する場所によっては、活用保存の費用に当たる収入を生み出せる場合もあるが、そのような事例は、むしろ稀である。家の見学というような、一見費用を必要としないような活用でも、全くお金無しにできるものではない。I章、(6)節にも述べたように、わが国の文化レベルの低下につながる文化財の消滅を防ぐには、ある程度の公費の投入は不可欠である。「そのような予算は不要不急である」という意見は、「将来、国が亡びることを防ぐ費用など不要不急である」というに等しいことを、市民は理解して欲しいと思う。

1-2 「古い日本住宅に見られる生活の工夫」についての出前授業

1-2-1 事業の概要

事業の実施日と参加者

羽曳野市立埴生南小学校平成 21 年 9 月 14 日実施

4 年生 3 クラス、105 名、担任教員 3 名、副担任 1 名、計 4 名

事業の実施方法

羽曳野市立埴生南小学校多目的室において、「古い日本住宅に見られる生活の工夫」について、多くの写真と棹秤やがندوقを持参し、45 分間の授業を行った。棹秤とがندوقは、実際に子供達に使わせて、その機能を確認させた。この授業により、3 日後に実施した 9 月 17 日の埴生南小学校生による畑田家住宅の見学・体験学習会の効果をより高めることが出来たと考えている。授業時間の関係で、子供達からの質問を受ける余裕は殆どなかったため、後日の見学・体験学習会も含めて、感想・意見の提出を教員、生徒にお願いした。

子供たちに特に伝えたかったことなど

写真と実物の道具を用いて、伝統的木造住宅の構造や家の中で使われていた道具の話をしつつ、次の諸点を伝える努力をした。

- ①その家は何歳で、どんな人が生活してきたか
- ②家にはそこで暮らしてきた人の工夫が一杯詰まっている

- ③人は家を通して、そこに住んできた人々の歴史を含めて、いろいろなことを知ることができる
- ④人は、また家を通していろいろなことを後世に伝えることができる
- ⑤日本の伝統的木造家屋は人が生きていくうえで大事な「勿体ないと思う心」と「想像力」を養える場所であること

1-2-2 とりくみのきっかけと今後の方針

筆者（畑田）は、過去 30 年を遥かに超えて、小・中・高校への出前授業を行なっている。専門の高分子化学についての出前授業を始めたのは 1975 年で、学校の先生方があまりにも忙しく、学校は悲鳴をあげていると言っても過言でないような状態にあるのと、小学校では教員の大部分があらゆる



和燭と行灯で照明された座敷

教科を担当しなければならず、特に、自然科学の分野では、生徒の質問などに教員が対応できない場合が多いというような点について、協力支援をしたいと考えたのが、その切っ掛けである。その後、文化財の活用保存の仕事に関わるようになって、一般市民の文化財への関心を一層高めることの必要性を痛感するようになり、そのためには、小学生の頃から、文化財について学ばせることが必要であると思うようになり、「古い伝統的木造住宅に見られる生活の工夫」や「科学と道徳」などについての出前授業もするようになった。

したがって、この出前授業は、文化財の活用・保存にとどまらず、子供達の「文化を大切にし、これを未来に繋ぐ心」を養う上で是非とも必要なことであり、特に、感性、好奇心旺盛な小学生に、「文化を大切にし、これを未来に繋ぐ心」をしっかりと植えつけるために、続けて行きたいと考えている。また、「今、戦中・戦後のことを思う」というような話も含めて、親、保護者、先生方を対象とするお話し会へも展開して、子供を含む広い世代間の情報・意見交換の場や切っ掛けを作りたいとも思っている。

1-2-3 子供と先生の感想・意見に学ぶ

Ⅱ章、1-1-3 および 1-3 を参照してください。

1-2-4 所有者・実施担当者の所見

子供たちが文化財建造物に接触する機会をつくり、理解を深めてもらうことは、文部省の「文化や伝統を大切に育てる心」を育てる」と題する小学校の道徳教育の手引き書にも記されている通り、日本の将来を担う子供たちの文化財への理解を深め、日本文化の深化に貢献できる市民を一人でも多く育てるために、是非とも必要なことである。ところが残念なことに、日本文化を伝える文化財の重要な一つである日本の伝統的木造建造物は、登録文化財登録への関係者の必死の努力にもかかわらず、その数が次第に減少し、日常生活から遠い存在となりつつある。そのため、子供たちにとっては、登録文化財のような日本の伝統的木造住宅は、きわめて非日常的な存在となり、数時間程度の見学では、珍しいものを見たという程度の印象を受けるだけに終わってしまう子供もいる。本年は、上記の通り、畑田家住宅の見学を出前授業と組み合わせることにより、子供たちの受け取り方を、「珍しいものが見えた」から「大事な珍しいものを見た」に変えることが出来た。授業で得た

印象を、実物を見て膨らませるという効果は大きかったと考えている。

また、現場の見学では、子供達の興味の対象が周りに一杯あるため、注意力が散漫となり、折角の説明が、的確に聞き取られない場合がある。授業では、注意して話をすれば、この様なことは避けられる。したがって、授業と見学という、教場を変えた二つのタイプの出前授業の組み合わせの効果は大きかったと考えている。

1-3 子供と先生の感想・意見

丹比小学校教員

「なぜ、そうなるのか」、「本当にそうなのか」と疑えと指摘して下さったことが、とてもありがたく心に残っています。教師は、教えるのではなく、問いかけるのが仕事・・・子どもたちがわくわくし、生き生きと問題を解決してみたいくなる問いかけに苦戦する毎日です。畑田家の古き良き品々や昔の人の工夫について、子どもたちは、それぞれ何か感じて帰ったようです。

貴重な体験をありがとうございました。(4-1 担任 入谷裕子)

私自身も昔の人々の生活や道具については、未知の世界の内容だったので、子どもと一緒に学んでいるという状況です。毎日学校にある実物や写真を使って、授業をしていますが、お家を見学させていただくことでイメージをふくらませることができ、よい体験ができたのではないかと思います。畑田さんにお話していただいたことを、教師として今後の指導に生かしていけるように精進していきたいと思っています。ありがとうございました。(4-2 担任 森晃史)

何度か畑田塾などで訪れ、知っているつもりでおりましたが、あらためて見直して先生のお話や他の皆さんのお話を聞いていると、発見することが多かったです。永く生きてきた家の存在感や、そこに住んで生きてきた人の生き方や歴史、生活の工夫というようなものを強く感じました。現在の私たちが便利さの引き換えに失くしてきたものの多さを思いました。子どもたちの柔らかい感受性が受け取ったものは、実際に触れることで、うまく言葉にできなくても体のどこかにきつと残るだろうなあと思いました。(4-1 担任 織川久子)

埴生南小学校教員

今の子供たちの生活から、昔の生活を想像することはとても難しくなっています。便利な生活が当たり前になっている今の時代に育った子供たちにとって、今回の見学のように昔の家で使われたときのまま残っている道具を実際に見ることにより、本を読んだり話を聞いたりして学習することだけでは違い、より具体的に昔の生活を想像することができるようになりました。子供たちは、自分が今住んでいる家と畑田家住宅とを比べて、昔の家のよさに気付いたり、昔の家に住みたいと思ったり、人が生活の基盤としている家が大切にされてきたことを実感できたようです。

畑田家住宅を見学させていただき、今の生活様式と昔の生活様式の違いを知るだけでなく、数々の道具が、人々が生活のために生み出してきた大切な宝物であり、工夫された家の構造も昔の人々の知恵が作り出した素晴らしい物だと気づくよい機会となりました。

見学を終えた子供達は、今では当たり前のように使っていた物にもその発展の歴史があることを知りました。昔の人々の知恵が生み出したものをいつまでも大切にしたい気持ち、その心を今回の見学で子供たちと確認することができました。今後の子供たちの生きていく上での大切な経験ができた見学でした(4年担任教員 西森友美、中本万基、奥中佑佳子、増田妙子)。

丹比小学校4年生

畳の場所が多いと聞いて、私は驚きました。しかも廊下がどこにもなくてびっくりしました。し

かも庭がとっても広くて松の木がとっても大きかったので遊びたいと思いました。

学校に帰る前に、畑田家住宅の庭でオルゴールを聴きました（山本しおり）。

キッチンにはかまどがありました。今は、ガスで火を付けていますが、昔は、自分でおこしていたそうです。残った火は、びんみたいな入れ物に入れて炭にして、もう一回使っていたそうです。昔の人は物を捨てないで大事に使っていたそうです。今は、炊飯器だけど、昔はかまどでお米を炊いていたそうです。私は、昔の人は頭が良いなと思いました。今の冷蔵庫は食べ物を冷やしていますが、昔は、冷蔵庫はなかったそうです。色々教えてもらえたりして楽しかったです。びっくりしたことがいっぱいありました。昔と今との違いがすごいなあと思いました。私はどうしてこんなに違うのかなあと思います（川原まりん）。

この家は、120～130年につくられた物です。昔の村長さんの家だった。私は、何で2階は物置なんかなあと思いました。すごい丈夫だなあと思いました。昔は教科書は無かったってしていました。くらが三つありました。米倉など。家が広いので、大黒柱が2本ありました。昔の人は、物を大切にしていました。床下は、すごく高かったです。広場は、すごく広かったです。また行ってみたいです（郡司彩華）。

家が120年前にできたのがすごいと思った。廊下があまり無いとっていた。ほとんど畳しかなかった。扇子がいっぱいあった。庭に木がたくさんあった。くらが三つもある。ねずみ返しがあった。外にも畳が保管してあった。草が、いっぱい咲いていた。石がいっぱい埋め込めていてすごいと思った。昔は、牛を飼っていたから、私も牛を見たかった。畑田家住宅を見学して良かったと思います（黒木月花）。

昔は、がんどうという、懐中電灯があった。昔の家には、長屋門がある。納戸は、昔、宝物を入れる所だった。畑田家住宅は、120年前の家。畑田家住宅は、昔、村長の家だった。ぼくの知らない道具がいっぱいあったので、びっくりした。昔の家は苦勞していると思いました。畑田家住宅に行けて良かった（水本たつき）。

ぼくは入ったときすごく古い建物だなあと思いました。聞いたら120年前にできたといいました。昔の物がいっぱいありました。ぼくは古い家は地震ですぐ壊れると思っていたのに、実際は違いました。おどろきました。ぼくは古い家が今も残っているなんて思わなかったです（竹波光）。

120年前にできたといっていた。120年前に立てられた家がまだあるってすごいなあと思った。初めて分かったのが、昔の家は壊れにくいと聞きました。出入りする屋根が部屋一つ分とっていたのがすごいと思った。色んな道具を教えてくれて一番すごかったのが計算機です。電卓よりすごい計算ができるっていったので、ほんとなあと思いました。もう一度行きたいです。昔の道具のことをもっと知りたいです（山本大貴）。

このかまどで炊くご飯はとてもおいしそうだった。畑田家は100年以上も前に建てられたと知った。大黒柱が2つもあった。庭はとても大きかった。物置はとても広かったし、畳などもあった。他にも、昔、使っていた物もあった。鯉のぼりを付ける木がすごく長かった（10メートルくらい）。中庭に木がいっぱい立っていた。屋根がすごく高かった（塩足かいと）。

台所は木を入れて火でつけるので、今と違ってしんどそう。昔の台所は、なべを、大きい、ふつう、小さいのを調節できるので、びっくりした。昔の冷蔵庫は冷たいところにある（長野貴三也）。

五右衛門風呂に入りたいです。畑田家住宅の屋根は高かった。いすにボタンが付いていて座ったら音が鳴った。そのいすに座ったら頭が良くなるのは何でか知りたい（山本れみ）。

畑田家は工夫をしているところがたくさんありました。庭や台所などが特に工夫をしていました。畑田先生も日本の勉強などを詳しく教えてくれました。昔の人の知恵や考え方も詳しく教えてくれました。今の日本人は、昔と比べて全然かしくくないのが分かりました。一度昔の暮らしをしてみたいです（田口奈穂美）。

昔のまな板が下駄みたいな形だった。床の下に冷蔵庫があったし、すごく深かった。いすに座るとオルゴールになった。くらが3つあった。物置場が広がった。すごく家が広がった。今の家と違ってすごく広い。今ではない物がいっぱいあったし、今の時代の家の庭は、そんなに広くないと思っただし、畑田さんの家の庭はすごく広がったです。しかも、五右衛門風呂があったり、かまどもありました。今と昔はすごく変わったと思いました（村松めい）。

明治時代につくられた。5、6年前に国に大切に保存するっていわれたらしい。五右衛門風呂があって、すごく暗くて怖かったです。薪で余った木は、火消しつぼで炭にする。冷蔵庫は床下でひやひやしていました。「なんど」は、寝るところだって。いすに座るとオルゴールの音が流れる。昔は出窓がお供の部屋？！くらの入口に、板が上がっているのは、ねずみに入れないようにするため。色々なことを教えてもらって、とても楽しかったです（松本ひかり）。

昔は牛小屋があったそうだ。井戸は深かった。そこから水をくんでいたそうだ。かまどは3つぐらいあった。五右衛門風呂は思ったより小さかった。いすに座ったらオルゴールの鳴るいすはすごかった。明治時代に建てられたそうだ。小槌もあった。行灯というろうそくを入れたら明るくなるやつもあった。畑田家は、有形文化財ってやつに登録されているそうだ。ぼくは有形文化財っていうのがよく分からない。畑田家は窓も障子もあった。冷蔵庫は畳の下だった（岡本海）。

埴生南小学校 4年生

4年生全員で、畑田家住宅に行きました。歩いて行きました。畑田先生は、昔の家を大事にあつかわれています。昔の道具や家の様子といえば、男の子が生まれると、こいのぼりを屋根より高いところに立てたり、女の子が生まれると、おひなさまをまつたり、桐の木を植えて、その女の子がお嫁に行くとき、その桐の木でたんすを作ったりすることにもおどろきました。

あと、岡さんが畑田先生に「このいすにすわってみ」と言われたので、岡さんが座ると、きれいな音が聞こえるオルゴールでした。とてもきれいな音で、とてもすばらしかったです。

そして、私がびっくりしたのが、ゆか下に野菜を保管していたことです。ゆか下には、野菜とかを保管していたのだらうと思いました。私が、二番目にびっくりしたのが、がندوقという道具です。この道具は、暗いところで、ろうそくに火を付けたら、周りが明るくなる道具です。その道具には、あるふしぎがあります。それは、ろうそくに火が付いているときに、がندوقをふりまわしても、ろうそくの火が消えないようになっています。

畑田先生の家に行ってみて、思ったのが、古いおうちなのに、じょうぶだなあと思いました。畑田家住宅に行けてよかったです（井脇恵穂）。

畑田先生の家は壁がないのと、大黒柱が30cmあるのとか色々驚きました。畑田先生の家に入ると玄関が広がったです。ぼくは二階に上がってみたいです。トイレの横には牛を飼っているのがちょっとこわいです。人のウンコとか牛のウンコを肥料にしているのもびっくりしました。井戸の深さはだいたい見た感じ十メートル以上だと思います。あばれていると床がわれるとこわいです。

ぼくがこの「日本の宝物」を題名にした理由は江戸時代から残っている家、田の字型平面や、いろいろむかしのなべ、かまどがそのまま残っている。日本の宝物だと思いました（古澤将之助）。

私は、畑田家に行って、たくさんの発見と、私の家と畑田家の違いもたくさん見つけました。私の家と畑田家の違いは、全部です。玄関は、私の家よりも広いし、土間は地面が土なのですごくびっくりしました。貯蔵庫の中はすごく涼しかったし、懐中電灯を照らしてみないと見えないくらい、暗かったです。昔の人は工夫してるなぁと思った所は、田の字形平面です。お客さんがたくさん集まったら、ふすまをはずして広く使うのが、頭を使っているなぁと思いました。しかも、お客さんがえらかったりしたら、部屋も違うと聞いてびっくりしました。私も昔の家に住みたいなぁと思いました（田中梨菜）。

僕は、9月17日に畑田家の家に行きました。学校から畑田家について門から入りました。畑田家に入ったらすごいと思いました。家の中は涼しくて広かったし、道具がいっぱいありました。畑田さんが道具の話をしてくれました。畑田さんは、道具は買うより作った方が良くってっていました。畑田さんの家には昔の道具がいっぱいありました。つぎに女の人も昔の道具や、話をしてくれました。つぎにおじさんが、庭の案内をしてくれました。庭には、自然の石で作ったものがあったし、たんすが作れる木も教えてくれました。畑田さんは百年以上たっている家に住んでいて、日本文化財の印もあったし、この家は日本の宝物ってっていました。昔の道具もあったし畑田さんはいっぱい話をしてくれたし、昔の道具がこんなやっってわかりました。畑田家を見学できて楽しかったです（須崎雅也）。

私は、畑田先生の家に行って、変わった所がいっぱいありました。私の家と比べて、工夫しているところがあったし、ゆかも、土や、畳などばかりで、今の家と、昔の家をくらべたら、ぜんぜん全くちがいました。それに、道具も、ぜんぜん違いました。炊飯器が、かま、冷蔵庫が、貯蔵庫など、いろんな発見をしました。

私は、田の字型平面は、すごい工夫だなぁと思います。なぜかという、たくさんのお客さんが来ても、ふすまをはずして、大きな部屋にできるからです。また、畑田先生の家に行って、ゆっくり見学したいです（岡利々歌）。

2 山田家住宅

2-1 山田家住宅—大学生のさつまいも掘り体験

2-1-1 事業の概要

事業の実施日と参加者

山田家住宅—大学生のさつまいも掘り体験 平成21年10月24日実施

大阪観光大学観光学部中尾研究室、参加者32名、引率 中尾清教授

事業の実施方法

①さつまいもの植え付け作業は、5月16日に学生らによって実施

②さつまいもの収穫作業は10月24日午前10時開始、2名の講師により作業を指導

作業要領の説明：備中鍬による掘り方の実技指導のあと、OJT実施で150株を収穫

③さつまいもを蒸かす作業：泉南市婦人連絡協議会の協力で実施



芋洗い、水切り、ヘツツイ（竈）焚き、蒸籠で蒸かす、頃合いの確認

④さつま芋談義：中尾教授の司会進行でさつま芋を試食しながら実施

昔の農作業・台所、古民家の役割、農機具・民具について話し合う

子供たちに特に伝えたかったことなど

タイムスリップした実体験ができる古民家がまだ残っていること、そこから学ぶことができる多様な文化遺産があること、伝承してほしい一世代前の農家の暮らしを見聞する機会であることなど

2-1-2 とりくみのきっかけと今後の方針

大阪観光大学の中尾研究室で様々な実体験を希望していたことと、山田家の意向が合致したことにより、3年前に芋掘り体験に中尾教授が学生を連れて来訪したのが始まりである。

初年度の一昨年は芋掘りと山田家屋敷見学会、昨年は熊野街道研修散策が加わった。本年は、5月にさつま芋の植え付け作業と熊野街道研修散策を行い、10月に芋掘り作業と芋蒸かし作業、それに試食しながらの談義が加わった。

山田家では、大学側の要請がある限り、この事業を継続したいという意向を示しており、内容も年々充実していきたいと考えている。

2-1-3 子供と先生の感想・意見に学ぶ

Ⅱ章、2-1-5 参照

2-1-4 所有者・実施担当者の所見

山田家住宅では、屋敷にあった農具・民具などを集約・展示して、5年前に民俗資料館を開設した。この民俗資料館は、一般公開日や各種イベントで山田家を開放する日には公開して、多くの方にご覧頂いている。見学者は興味を示しているの、それなりに有効に機能していると自負しているが、使用機会のない若年層にとって、説明だけでは理解が不十分と感じていた。



さつま芋をヘツツイ（竈）で蒸かす

芋掘り体験では、備中鍬の使い方から始まって、一輪車操作など汗をかく作業が続く。収穫した芋を食べるには、ヘツツイ（竈）で焚き木を使って羽釜の湯を沸かし、蒸籠を積み上げて芋を蒸かすなどの一連の作業が必要で、これらは、一度経験すれば忘れることはない。電化された今の時代を生きる若者にとって、昔の暮らしを体験的に学ぶ非常に貴重な機会だと思っている。

2-1-5 学生と先生の感想・意見

山田家でのいも掘り体験について

大阪観光大学教授 中尾 清

1. 取り組みの学校教育の中での位置付け

学校教育の中での位置付けは、観光文化実習の一環として、グリーンツーリズムの実践に取り組んだものである。実習の目的は、観光学入門で学んだ内容の各論のひとつであるグリーンツーリズムの実践を通してレベルアップを図るものである。

具体的な内容は次の通りである。

①泉南市の山田家及び山田家保存活用協議会の協力を得て、芋の苗の植えつけと収穫（芋ほり）、試食、芋談義などを通して農業体験をした。

②このほかに、大阪府（農と緑の総合事務所）の協力を得て、貝塚市にある農業庭園「たわわ」で、

田植え・草取り・稲刈り・収穫祭に参加した。

これらを通して、日本の「農」と「食」を考え、旅行商品としての「グリーンツーリズム」の企画能力を養う。

2. 取り組みについての感想（教育的効果も含む）

山田家及び山田家保存活用協議会の協力により、「農」を身近に感じる体験であった。また、勤労を通して、農家の苦労を感覚的に捉えることができたと思う。

教育的効果としては、

- ①登録文化財である山田家住宅の台所で、収穫した芋を洗い、昔ながらの竈で、蒸して、芋を試食し、芋談義をすることによって「食」について学生たちに考えさせることができた。
- ②山田家住宅には、江戸期の庄屋屋敷である住宅そのものと江戸期以降の農村の歴史・文化・生活などの貴重な資料が残されており、学生たちに生きた教材を提供していただき勉強になった。
- ③山田家及び山田家保存活用協議会、婦人会の皆さんとの交流も地域を理解する上で役に立った。

3. 今後の希望

文化財の保存活用と「農作業」について、今後は、もう少し学生の活動分野を増やしていきたいので、山田家及び山田家保存活用協議会、婦人会の皆さんのご協力とご指導を賜りたいと思います。

以下は、大阪観光大学中尾研究室学生の感想・意見である。

山田家住宅から考える～地域振興とは何か～

金本敬光

最後に芋ほりなんてしたのはいったいどれくらい前のことだろうか。記憶にあるのは毎年秋の保育園行事でだんご虫を片手に小さな右手に合ったサイズのシャベルを使い、小1時間かけ、芋を最初に掘り当てたものところに皆が集まる。その後にある、落ち葉を集めての焼き芋大会。先生が火を起し、シャベルで得た戦利品を火に入れる瞬間は心躍るような気持ちであった。黄色に輝く焼き芋のおいしさ。この日ばかりは野菜嫌いであることも忘れてしまうほど、幼いながら自然に感謝した。なんとも懐かしい記憶である。

このときは、まさか来年4月に成人を迎える私が芋ほりをするようになるとは、とても考えることはできなかった。やはり19才の芋ほりは当時とは違った。こども相手であった大人が、大人相手の大人になったのだ。いや、そうではない。私が子供ではなくなったのだ。

私は今回、「芋ほり」に参加したわけであるが、私が実際に参加した意味は、「地域振興とは何か」を知りたかったからである。一概に地域振興といっても、様々な団体があり、「地域振興とは何か」を定義することは難しい。なので、その地域の維持・発展のためにどのような活動が行われているか、あるいは運営をしているかを考えることにした。

今回は新家の「山田住宅」にお邪魔させていただいたので、「山田住宅」について、私の主観的な考えではあるが、地域振興への貢献度を考え、以下の表に掲げる。

出来ごと	貢献度
地元住民の憩いの場であること	幸福や快樂
身近に歴史を感じることができる	伝統の文化の継承
地元住民と観光者の協働	新たな人との出会い
新たな知識を蓄えることができる	知識やものごとの考え方
コミュニケーションを取れる絶好の機会	人と人のつながり
わずかだが地域振興運営費の収集ができる	地域経済の活性化

「山田住宅」は以上の点について地域振興に貢献していると考えた。特に、「幸福や快樂」、「伝統文化の継承」、「人と人のつながり」について非常に重要であると思う。

今回、山田住宅で「芋ほり」や「石鹸づくり」など貴重な体験をさせてもらったが、そこから生まれる、「出会い」、今は減ってしまった「世代が離れた方とのコミュニケーション」、今あるものから考えると使いにくい、「現在の道具の核となる道具についての知識」などは、現在の日本において徐々に水面下で足りなくなっているものではないかと思う。地域振興の活動によって、週末、古き日本に帰ってみるのも良いことではないかと思う

芋掘り体験で韓国と比較する

姜智殷

10月24日（土）JR 新家駅の近くにある山田さんの家に芋ほりに行ってきました。幼稚園の時に芋ほりに行ってすごく楽しかった思い出があって、久しぶりのことでわくわくしていました。

山田さんの家は江戸時代からそのままの伝統的民家だということを知って驚きました。ほとんどがそのまま保存されていてすごくいい経験になりました。家の形は韓国と大体似ていましたが、山田さんの家は屋根がちょっと丸まっていた。

韓国の韓屋（ハンオク）の一番大きな特徴は、暖房のためのオンドルと冷房のための縁側がバランスをとっている構造を持っていることです。大陸性気候と海洋性気候が共存している朝鮮半島の暑さと寒さを同時に解決するための韓国の独特な住居の形式であります。もちろん地方の気候によって形が一寸違います。例えば、寒い北の地方の場合、内部の熱を維持するために部屋を二列に配列



して屋根を低くしたりする形の家でした。

韓国で一番韓国的な所だと言われているアンドン「An-Dong」という所はイギリスの女王も訪ねたことがあるぐらい韓屋がよく保存されていて綺麗なところです。次に示す写真はアンドンの写真になります。



私たちが栽培した芋は釜で蒸してすぐ食べることができました。芋に塩をつけて食べるのが初めてで、最初はちょっと怪しい気持ちもありましたが塩をつけるとさらにおいしくて甘味が強くなりました。韓国でもサツマイモは結構愛されていて種類も多いです。

最近普通のサツマイモと栗サツマイモ、水サツマイモ、カボチャサツマイモまであります。韓国のサツマイモはほとんどが甘くて柔らかいです。下左の写真は水サツマイモです。普通のサツマイモより水分が多くて水サツマイモと呼ばれています。水分が多くて蒸れるとほやほやしておいしいです。冬には焼き芋としてよく使われます。下中の写真は栗サツマイモです。栗の味がするといって栗サツマイモと呼ばれています。蒸したり焼いたりすると水分がなくなって堅いのが特徴です。栗サツマイモは長く保存すると水サツマイモに変わります。栗サツマイモは澱粉が多いのですが、貯蔵の期間が長くなるとその澱粉が糖分に変わるからです。最後の右下の写真はカボチャサツマイモです。写真から分かるようにカボチャみたいに黄色くてかぼちゃサツマイモと呼ばれています。黄色いサツマイモ、蜂蜜サツマイモともよばれています。水分と糖分が他のサツマイモより多く、消化もよいといえます。全体的に栗とかぼちゃを混ぜた味がしますが、蜂蜜サツマイモと呼ばれるぐらい糖分がたくさんあります。生で食べても良いのでサラダとかにもよく使われています。最近はこのカボチャサツマイモが大人気で、おすすめしたいとおもいます。

今回の体験を通して韓国と日本は本当に似ているんだな、と思いました。家の形や釜やサツマイモまで・・・釜は同じでびっくりしました。同じものでご飯を作っていたのだと思いました。他の国というより他の地方と思われるぐらいでした。日本の家屋について説明を聞きながら印象に残ったのは、泥棒にあっても被害を少なくするため、お米倉庫を3つに分けていたということと、身分によって家に入る門が違うということでした。聞きながらなるほど、という言葉が自然に出てきました。自分の国の韓屋についてもよく勉強するべきだと考えました。韓国と似ているけど、ちょっとずつ違うことがあって面白かったです。貴重な体験で勉強と思い出になりました。



山田家を訪ねて

松田直記

1. 見学の機会

泉南市唯一の登録有形文化財「山田家住宅」は、平成14年3月に文化庁から登録され、その2年後の平成16年4月に「山田家住宅保存活用協議会」が発足して5年、公開を始めて5年、今年「大阪ミュージアム登録物」になった豪農旧庄屋屋敷で、「JR新家」駅から徒歩5分に位置しており、芋掘りとともに見学しました。

2. 見学時の質問

「江戸時代に建てられて現存する屋敷が国の登録有形文化財になっていますが、助成金は貰えるのですか？」と私から案内の方に質問しました。回答は、「今までに多額の保守費用を投じていますが、国からの資金援助や金銭的補助は一切ないので、物件所有者は費用を個人負担していました。」

そのため会員を募り、「山田家保存活用協議会」として、団体会員費一口5000円、個人会員費一口1000円による運営にしました」とのことでした。

文化財は、もし解体してしまうと、元には戻らない貴重な物件ですが、個人として保存に費用がかかり、補助金もなく、2800㎡の敷地の固定資産税が高いはずなので、泉南市が固定資産税を免除するとか、優遇すればよいと思います。

3. 自治体管理施設との違い

愛媛県西予市に「愛媛県立歴史文化博物館」があり、昔の道具にふれる体験をしましたが、各地から博物館に集められた脱穀機と、山田家庄屋敷民俗資料館に残る脱穀機や農具は、地域で使われていた道具があるべき場所に展示され、居場所を得ていると感じました。

4. まとめ

大学近郊に、江戸時代の豪農庄屋敷が保存されていて訪問出来ました。個人が資産を投じて長期間管理保存していたので、今なお現存している歴史が感じられました。

芋掘り体験の感想

シンスンへ

都市での生活ばかりして自然と接する機会があまり多くなかった。日本に留学して来てからグリーンツアーズ活動を通じて良い経験をするようになりました。初めには好奇心で始まりましたが、その次には初めて接する事ばかりなので大変でした。しかし稲、イモ等を植えることから始めて、耕作する過程を通じて、農作物を得ることができるということと、私の手で直接作ったという喜びを得ることができました。また都市ではスーパーで買い物をして、手軽に暮らすことはできると思っていたのですが、こんな大変な過程を通じて農作物をつくるという大事なことを学ぶ良い機会をえることになりました。芋掘りした日のイモとイモ鍋は、いつもよりずっとおいしかったです。自分が5月に植えたさつま芋を食べたこと、初めて友達と一緒に食べたこと、ほのかな味、これらは本当に良い楽しい一日でした。

芋掘り・石鹸づくりに参加して

清水仁美

芋掘りをするのは保育園以来だったので掘る前は少し緊張しましたが、芋のツルの周りの土を備中鍬で掘り、芋が顔を出し、その芋の周りを手で掘っていくと、つぎつぎと芋が出てきたときには、嬉しかったし、とても楽しかったです。私の家には小さい畑がありますが、最近ではほとんど触れていなかったもので、久しぶりに芋掘りをして土に触れたり、いろいろな虫を発見することができたりして、土に触れていたときのことを思い出しました。これからは、少しでも家の畑の手伝いをし土に触れたりしようと思いました。

それから、芋掘りの後に自分たちで芋のヒゲをとり、きれいに水洗いした芋を、昔からある蒸す道具で蒸して、塩をつけて食べたときには、今まで食べてきたどの芋よりも美味しいと感じました。また、芋の味噌汁を作ってくれたのをいただくと、心の芯から温まり驚くぐらい美味しいと思いました。

そのあとの山田家住宅の資料館を見せてもらったときには、現在では使用されていないようなものが多くあり、昔はこのようなもので過ごしていたのかなど発見があり、今いる空間が昔の暮らしにタイムスリップしたかのような空間にも感じられました。そこでは、現在の暮らしが如何に便利になったか、便利になりすぎてはいないかということを考えさせられました。

旧庄屋敷・山田家住宅のような、ずっと昔からある建物で歴史が深く、その当時の生活様式を知ることができる住宅を、これからもそのままの形で残していくことが必要だと思いました。今更

ではありますが、私の地元にも山田家住宅のような文化財があることを知ったので、行ってみようと思いました。

最後に、石鹼づくりを体験しました。初めて石鹼をつくったので、最初はどややって作るのか戸惑いましたが、面白くて親切な婦人会の方たちが丁寧に教えてくれたので、みんなで楽しく石鹼をつくることができました。やはり、人の手で作るとなると大変体力を使うのだなと感じました。また、廃油を使って石鹼を作ることはエコにつながるので、素晴らしいことだと思いました。作った石鹼を使用できるのは1週間後だということなので、早く使いたくて待ちきれずウズウズしています。今回、芋掘り・石鹼づくりなどに参加できて良かったです。また機会があればしたいと思います。

芋ほり実習に参加して

西 真奈美

今回芋ほり実習に参加して、幼稚園以来芋ほりをしていなかったのも、とても懐かしかったのと同時に、楽しく体験することができました。また、芋ほりをしていると多くの生物を見ることができ、自然なその空間を身近に感じることができました。芋ほり後、私は芋のひげを取る作業をしました。その作業を行った台所では、現在とは全く異なった造りになっているので、現在とは異なった昔の台所の雰囲気を味わうことができたのは、わたしにとって貴重な体験でした。

蒸かしたての芋はとても甘く、おいしかったです。きっと自分たちで掘った芋だから一段とおいしく感じたと思います。芋を頂きながらの貴重なお話は、新家の名前の由来や旧庄屋屋敷・山田家住宅などのことを知ることができたので、とても勉強になりました。

食廃油を使った石鹼づくりでは、婦人会の方々と楽しく会話をしながら石鹼をつくることのできたのもとても楽しかったですし、石鹼をつくるとういことは初めての経験でした。アロエ・米ぬかを使っているとういことで、体にやさしく、また食廃油を利用しているので環境にもやさしいという一石二鳥で素晴らしいと思いました。

全体を通して、貴重な体験ができる環境があるので、もっと多くの人に利用してもらいたいと感じました。きっと子供たちも、この体験を楽しんでもらえるのではないかと思います。便利な生活を送れている現在、自然に触れ合う機会は昔に比べ減っていると思いますので、自然と触れ合い、自分で食料を収穫する楽しさ・大切さなどを感じてもらいたいです。

芋ほり体験の感想

長谷川由真

今回の実習での芋ほり体験は、とても良い経験となりました。幼少時代に少し芋ほりをした経験がありましたが、久しぶりの芋ほりで数日前から楽しみにしていました。

まず始めに山田家を見せていただいたとき、こんな立派な文化財があったのかと驚きました。芋ほりが始まると必死になって芋を探しました。芋は繊細なので傷つけないよう周りから掘っていくことや、ミミズがいる土ではおいしい芋が育つことなど、たくさん知識を教えてください、楽しみながら芋ほりをしました。初めて大きな芋を自分で掘り出したときはとても嬉しかったです。途中で虫にかまれたり、大きなカエルに驚きましたが、こうした自然があるおかげで芋が育つのだなと改めて感じました。今回は大勢で芋ほりをしましたが、実際に農家の方は少人数であんなにたくさん芋を掘っているのかと思うと、体力や農機具がとても重要だなと感じました。

また自分達で蒸かして食べた芋は格別においしく感じました。丁寧に洗い、芋が蒸されるまで待ちきれませんでした。とても甘くて皮まで食べられた芋の味は今でも覚えています。その後につけていただいた自家製味噌で作った豚汁もとてもおいしくて、おかわりまでいただきました。

そのあとに登録有形文化財である山田家の紹介をしてもらい、家の中も見せていただきました。まるで当時の様子が想像できるようでした。当時は電気がないのでろうそくで作業をしていたことを聞き、自分達はなんて快適な暮らしをしているのだろうと思いました。またこんなに身近に素晴らしい有形文化財があることを知ることができ、現在もほとんど当時のままの形で残っていることに感動しました。当時の資料や農機具を実際に見ることはなかなかないので貴重な機会でした。

山田さんご夫婦や婦人会の方々、たくさんの方に親切に芋ほりを教えていただき、貴重な体験ができたことに感謝しています。

芋掘り・石鹼づくりのレポート

中谷晴香

今日は、山田さんのお宅に5月に植えたさつまいもの芋掘りに行かせていただきました。去年もグリーンツーリズムの一環として参加させていただいたのですが、去年よりも多くのさつまいもができており、実際に掘る体験もできました。手で頑張っただけで掘りましたが、これはかなり大変でした。さつまいもは、大きいものが2つできているのもあれば、小さいものがたくさんついているものもあり、5月の苗を植えた時の、私たちの植え方が様々だったのかなという感じでした。手で掘っていると、もぐらの通った穴なども発見し、おもしろかったです。本物のもぐらが見られなかったのが残念でした。

その後は、婦人会の方が私たちの収穫したさつまいもを蒸してくれたので、それをいただきました。鳴門金時という種類で普通のさつまいもよりも色が黄色く、甘みがあるように思いました。塩をかけて初めて食べましたが美味しかったです。芋鍋もおいしくいただきました。

そして、午後は廃油を使った石鹼づくりを体験しました。普段は使ったらそのまま捨ててしまう廃油を利用して、手軽に石鹼が作れるのには驚きましたが、とても環境に優しいと思いました。つくり方はとても簡単で、牛乳パックに苛性ソーダ・アロエ・ぬか・廃油を入れ、それを混ぜ合わせてつくりました。何にでも使えるそうで、それで肌を洗うとツルツルになると聞いたので、できあがったらさっそく使ってみたいと思います。

芋掘り、石鹼づくり共に普段できない体験ができたので、良い経験になりました。

さつまいも芋掘り体験

オムジエ

5月に私たちが植えたさつまいもを掘りに行った。行く前から、さつまいもがどのくらい大きくなったかどわくわくしていた。集合場所は山田家の中庭だった。さつまいもを掘る前におじさんが注意点を言ってくれて、さつまいもをどんなふうにも掘るとうまく掘れるのかを掘って見せてくれた。見ている時には易しく見えたが、実際にやってみると考えているほど易しく掘れなかった。幼稚園のとき経験して以来のことで、やってみているうちに昔の記憶が思い出された。さつまいもを掘りながら虫もたくさん出た。蛙も青虫も見えてあれこれ見たが、普段と違い、いやらしいと思わないで、虫がいてさつまいもがよく育つことができたという気がした。さつまいもを掘りながら大きいのが出るか小さいのが出るかと考えながら掘った。大きいのが出ると本当に私のさつまいものように気持ち良かった。

さつまいも掘りが終わって、さつまいもを持って、朝集合した屋敷に行った。韓国ではさつまいもは茎も炒めて食べたが、日本は肥料で使うのかさつまいもの茎は持って行かないのが不思議だった。私たちが掘ったさつまいもを洗っておばさんたちが蒸してくれた。

おばさんが一度味を見て見なさいと取り出してくれた。試食したが味が甘かったけど考えていたほどは甘くなかった。おばさんも甘くなかったのか塩を持って来てつけて食べ始めた。塩をつけて食

べたら甘味がもっと強く出てとても美味しかった。生まれて初めてさつまいもに塩をつけて食べて驚いたが美味しく良かった。蒸したさつまいもを食べてから、さつまいもが入った豚汁も食べた。さつまいもの豚汁も本当に美味しかった。さつまいもの豚汁は初めてのことで味が変わろうと思ったが、美味しいのに驚いた。

最近日本へ来たのだが、さまざまな経験ができて本当に良かったと思っている。さつまいも料理を食べてから時間がある人は石鱈作りに参加しなさいと言われていたが、惜しくもアルバイトの予定があって参加できなくて残念だった。また機会があったら、もう一度さつまいもも掘りたいし、石鱈も作りたと思う。

芋掘り体験の感想

ヤン ヒ ヨン

初めて、さつまいも掘る体験をしました。韓国で育った所は都市であったから、今度の体験は私にとってはとても大きな意味をもちました。さつまいもを植えてから掘るまでの過程は本当に楽しかったし、不思議でした。おじさんの教えどおり、さつまいもを掘るためにはまず、さつまいものつるを取り除けて、さつまいもに傷をつけないようにシャベルで深く地を掘ってさつまいもを掘り出さなければなりません。しかし、今まで経験がなかった私には決して易しいことではなかったです。地の中深く隠れているさつまいもをほっている途中で、つい、さつまいもが折れてしまいました。あの瞬間、ため息が出ました。そのように失敗を繰り返えしながらきれいに掘り出すことができました。あの時の喜びは、まことにすごかったです。まるで地の中の宝物を捜して去る旅行をする気持ちでした。そのように皆が掘り出したさつまいもを箱に盛って、皆一緒に記念撮影をしました。とてもいい経験でした。

それから、さつまいもの試食をしました。その味は……。やはりきれいな畑で生産したさつまいもの味は本当においしかったです。今まで店で手軽に買って食べていたさつまいもが、こんなに手がかかる事だと、初めて分かるようになりました。農村で働くおじさん、おばさんらの大変な事情と、農村の人手を助けなければならないということも感じる事ができました。家に帰ってきて、持って来たさつまいもを蒸して食べながら、もう一度その時の感動を感じて胸がいっぱいになりました。

こんなに日常生活から少し離れて、少しずつ変わって行く自然の姿を身で感じる事ができる秋の体験学習のおかげで、汗を流して得た成果の大事さを体験ができました。一緒に体験に参加してくださった皆さん、お疲れ様でした。また、感謝しています。

2-2 山田家住宅－むかしのくらし社会見学

2-2-1 事業の概要

事業の実施日と参加者

泉南市立一丘小学校 平成 22 年 2 月 2 日実施

小学校 3 年生 2 クラス 81 名、教員 3 名、実施関係者 5 名

事業の実施方法

小学生が旧庄屋屋敷・山田家住宅の屋敷を訪問する。待ち受けた案内人は、江戸時代に建立した豪農屋敷の概要を説明する。

山田家には厚い土砂で固められた瓦葺き屋根の付いた土塀がある、表門につづいて長屋門をくぐると主屋が見える、玄関がたくさんあり客によって入口が違う、このような屋敷の特徴を学ばせる。

米蔵は民俗資料館に内装替えされ、古書・家具・調度品・農機具などが展示してあるので、昔の人がどのような生活をしていたのか、今の道具と昔の道具の違いなどを展示物に触れながら学ぶことができる。特に電気のない時代の、蠟燭たよりの生活、農機具の変遷を知ることができる。

子供たちに特に伝えたかったことなど

水道がない時代は、ツルベ井戸や川の水が貴重だった。電燈がない時代は主にロウソクを使っていて生活様式や道具が今と非常に違っていた。電気のない時代は、農機具なども手動式だったが、農民が編み出し改良していた。田畑は多くの人たちの共同生活で成り立っていた。幸いにもここに古民家があることに喜びを感じ、伝承して欲しいと願う思いを汲み取ってもらいたいと思っている。

2-2-2 とりくみのきっかけと今後の方針

古民家は残り少なくなり、その保存にも経済的負担が大きい。しかし、昔の生活を知る上で、太い梁を持つ昔の木造住宅は現物を見ると、知識として学ぶ以上に感動を与えるものである。農家の調度品や農機具は、新しいものが世に出ると古いものは廃棄され淘汰されるのが通例であった。図らずも残っていたこれらの民俗資料・古民家が、昔のくらし体験になり目で見て学ぶ資料になりうる限り、保存活用に寄与したいと考えている。

この屋敷は貯蔵スペースがあちこちで確保できたので、古いものが廃棄されずに残ったのである。それらの道具が、今では珍しい、懐かしいと喜んでもらえるようになった。技術革新で昔の道具が消え失せると、それらは貴重品となる。家屋は時代物として重宝がられ、登録有形文化財、大阪ミュージアム登録物になっている。

2-2-3 子供と先生の感想・意見に学ぶ

以下に3人以上の児童が興味を示していた事柄を記す。

1. 父さんや母さんと一緒に訪問してもう一度見たいという意見が多い。
2. 座敷の鴨居に提灯を入れる箱があり屋号が書いてあるが、この屋号が気に入ったようで、イラストにしている子供が多い。
3. 電話のマークにも使われている黒電話に触った子供が多く、それが印象に残ったようである。
4. 農繁期に赤ん坊が子守唄（こもりふご）に入れられていたという話がショックだったのかこのことを取り上げている生徒が多い。
5. 槍や火縄銃、ソロバン、竈は今年も人気があった。
6. 洗濯板を初めてみた、触ったなどの声が多い。
7. 飲み水を地下から汲む井戸があったことの驚きがあった。
8. 龍吐水で火消しすることに興味を示していた。
9. 氷冷蔵庫で冷やすことに興味を示していた。
10. 大きな門、広い庭、たくさんの入口は子供にとっては異様だったようだ。

2-2-4 所有者・実施担当者の所見

小学3年生に「むかしのくらし」を学ぶ機会があり、当家を見学したいという申し出に喜びを感じて始めたが、これからは世代を超えて学び活用する場所の提供にできればよいと思う。

かまどを使ったさつま芋蒸かしや餅つきのイベントを行ってきたが、まだまだ使える道具が多くある。「むかしの道具を使ってみよう」体験など新しい企画も折り込んで、山田家住宅保存活用協議会は、山田家住宅の価値を高めていきたいと考えている。

2-2-5 先生の感想・意見

一丘小学校教員

1. 取り組みの学校教育の中での位置付け

3学年社会科「昔の暮らし、みつけた」の学習を深めるために社会見学として取り組みました。

2. 取り組みについての感想（教育的効果も含む）

本やインターネットで見ただけではよくわからない大きさや質感を、実物に触れることで体感できました。それも博物館ではなく、実存する古民家に当時の状態のまま保存されている様子を拝見できたことは貴重な体験となりました。自分たちの身近にこんな立派な文化財が残されていることを誇りに思いました。また、保存協議会のみなさまにていねいに説明していただいたことで、児童たちはより興味を持って聞いていました。

3. 今後の希望

子供たちが自分で読んでわかる説明、パンフレットなどあるとうれしいです。広いお庭で昔の遊び体験などのイベントも楽しいかと思えます。今年は残念でしたが子供が興味を持っているおひなさまやベーゴマなどの展示も希望します（3年担任 相良/高橋）。

3 小谷城郷土館

3-1 小谷城郷土館—昔の暮らしと道具の見学と体験学習

3-1-1 事業の概要

事業の実施日と参加者

私立はつしば学園小学校 平成21年11月10
～19日実施

小学校3年生5クラス144名、教員等10名、実施
関係者17名

事業の実施方法

5日間にわたって1クラスごとに来館してもらった。当日は、クラスを二つのグループに分けて、郷土館の展示「昔の道具」の見学と、とうみなどの体験学習をさせた後、母屋（座敷）に合流した二つのグループに、昔と現代の運ぶ道具を、パネルを使って説明し、ティッシュペーパーの箱、ペットボトル、本などの身近なものの風呂敷による包み方を実演・紹介し、子どもたちにも「風呂敷包み」を実践してもらった。また、子供たち各自が真田紐とリボンで作った「しおり」を持ち帰らせた。

子供たちに特に伝えたかったことなど

現代社会の便利な生活や機械類の発展は、先人の知恵と努力とやさしさから生まれたことを先ず生徒に学習させ、次いで、現在の生活ではポリエチレンの袋のように使い終われば捨ててしまうものが多い中で、今でも多少は使われている風呂敷の便利さを体験させて、「エコ」という言葉に代表される自然にやさしく、物を大切に、再利用を心がける環境について考える心、勿体ないと思



小谷館長のお話

う心を養うことの重要性を伝えようとした。

3-1-2 取り組みのきっかけと今後の方針

小谷城郷土館は、その設立時より、周辺小学校の「昔の暮らし」や「地域学習」の授業の見学体験学習コースに組み込まれている。当館では、各学校の先生方のご要望をとりいれて、体験学習などをプログラムに加え、児童が楽しく学べる企画を工夫してきた。しかしながら、予算の制限もあって、必ずしも満足できる状態ではなかった。

今回の事業では、「紐」や「風呂敷」を利用し、「結び」をテーマとして、昔の人々が物を運ぶときの方法・包装を考えることを体験学習に組み入れた。また、対象が小学校3年生ということで、真田紐を利用して、「しおり」作りを行った。今後も、身近な道具で子どもたちが取り組みやすい体験学習をしたいと考えている。



風呂敷の便利さの体験

3-1-3 子供の感想・意見に学ぶ

はつしば学園小学校の生徒たちから沢山の体験学習感想文をもらった。その内容に博物館のスタッフ一同は、この体験学習を実施したことが大変有意義であったと感じている。感想文の一部を抜粋して以下に紹介する。

「昔の道具のことがよくわかりました」、「わたしは昔のことにきょうみ(興味)がなかったのですが、小谷城に行って昔のことにきょうみ(興味)がわきました」、「ふろしきをつかって家族でいろんなものをつつんで再挑戦したいです」、「昔の物を、いろいろ見学したり、しおりを作ったり、ふろしきでマジックのようにつつ(包)んだり、とってもおもしろかったです」、「小谷城で作ったしおりをその日から家で使っています」、「ふろしきは、とってもべんり(便利)でした。また家族でいっしょに行きます」、「私はふろしきで物をつつむのが始めてだったので、うまくつつ(包)めるか心配だったけど、思ったよりうまくつつ(包)めてうれしかったです」、「ぼくがいままで行った博物館には、なかった物がいっぱいありました。また見学したいです」、

「また、行かせてもらってもいいですか！そのとき、いろいろ教えてください」、「またいきます。行ったときは、しつもん(質問)も聞いてください」、「ふろしきは、物がたくさん入るなんてびっくりしました。ふろしきかわりにハンカチをつかって小さなハンドバッグをつくりました」、「ふろしきは、日本でしか使っていないと思っていたけど、本当は、いろいろな国でさまざまなつか(使)いかたで、たくさんつか(使)っていることなどが分かりました」、「いろいろ昔の物を、みてよかったです。テレビよりはく力がありました」、「のうぐ(農具)がおもしろかったです」、「リボンむすびは、今も練習していますが、なかなかできません」、「また、いったとき教えてください」などである。

このような児童の意見は大変参考になる。われわれスタッフも子供たちと一緒に学習をして、楽しく、「むかしの道具」に理解を深めてもらえるように展示、説明等を改善していくことに取り組んでいきたい。今後も、子供から大人まで一緒になって学べる博物館を目指したいと考えている。

3-1-4 所有者・実施担当者の所見

昔のものに郷愁を感じるだけではなく、物の大切さと再利用の重要性を多くの人たちに知っても

らうには、子どものときから感性を磨き、多くのものを見たり聞いたりすることが必要である。そのような機会の一つとして、私共のような文化財の建物を日本文化を考える場として活用していただければよいと思う。

また、今回の企画では、児童が紐や風呂敷の色や柄の選び方を工夫することで、美的感覚を養い、個性をのばすことにも役立ったのではないかと自負している。この体験学習は、最近の便利な生活の陰に隠れて、忘れさられがちな基本に立ち返って考えることの重要性を生徒に教えることができるものに発展させたいと考えている。さらに、自分自身が作ったしおりを愛読書に使用することで、自分が作ったものは、壊れても修理出来ること、また、自分独自のものを作れることも学べたと思う。使い捨てが当たり前のような現代社会だからこそ、このような体験学習が必要と考えている。

児童の感想文から、子供が家でしおり作りや風呂敷包みに再挑戦したことが伺える。今回の企画が子供の家庭での会話の増加につながったことは、われわれが予期しなかった反響である。今後、より多くの学校に日本の生活文化を考える体験学習を実施したいと考えている。

3-1-5 先生の感想・意見

はつしば学園小学校教員 岸本祥一郎

1. 取り組みの学校教育の中での位置付け

社会の学習単元「昔の暮らし、見つけた」では、現代の生活では見聞きすることの少ない道具や暮らしの様子を取り上げています。したがって、できる限り実物に接し体験的な活動を大切にしたいと考えました。この活動から子どもが五感を通して感じ、気づくことが当時の人々の暮らしの知恵や願いをとらえることに繋がるからです。

2. 取り組みについての感想（教育的効果も含む）

様々な道具を直接見たり触れたりすることで、昔の暮らしについて、大変興味を持つことが出来ました。風呂敷包みや、しおり作りも、とても楽しんで取り組んでいました。質問にも丁寧に答えていただき、子どもたちもいろいろなことについて深く学習でき、良い経験になったと思います。子どもたちは昔のものを写真では見ても、実物を見る機会がなかなかないのでたいへん興味をひき、とても勉強になったようでした。説明もわかりやすくしてくださり、子どもたちも楽しく学習できました。

3. 今後の希望

今回のように見学だけでなく体験をさせてもらうことで活動がひろがってよかったです。リボンを結ぶことさえできない子が予想以上に多く、驚きました。事前に把握して練習させるべきだったと反省しています。

4. 寺西家住宅

4-1 親と子の落語の集い

4-1-1 事業の概要

事業の実施日と参加者

親と子の落語の集い 平成 21 年 12 月 5 日実施

大阪市立苗代小学校の PTA の親と子を対象に、町家でプロの落語を聞く会を開催した。PTA の実行委員とその家族を対象としたので、中学生や就学前の幼児の参加もあった。参加人数は、62 人(大

人 34 人、子供 28 人)

これまでテレビやラジオでも落語を聞いたり、見たりしたことがある人は、全体の半数以下で、実際に繁昌亭などで、落語を聴きに行った人は1割もなく、ほとんどの人は初めての体験であった。特に、このような登録文化財の町家で目の前での観賞は、全員が初めてであった。

事業の実施内容

1、趣旨説明

2、落語

①林家染左「時うどん」(大阪大学出身で 24 歳の時に転職し、林家染丸の門下生となる。)

②りりん亭りん吉「厄払い」(小学 5 年生、天才落語少女といわれており、第 11 回ワッハ上方大賞を受賞している。)

③お囃子の解説(桂文太、林家染左、山澤由江)

④桂文太「七度狐」

3、落語さんとの語らい

4、アンケート調査のお願い

子供たちに特に伝えたかったことなど

伝統芸能である落語は、一人で何役もするし、言葉と顔の表情、上半身のしぐさ、わずかな小道具を用いて色々なものを表現し、それで観客を笑いの世界に引き込むものである。観客は、見て、聴いて、落語家の表現する処をイメージできなければならない。落語は子供達の想像力を育てるともいえる。子供たちが集団でみることによって、演者の仕草に集中し、聴き、笑いを共有することも可能である。親と子供が、同じ落語を聴くことによって、伝統芸能に対する共通の話題ができる。

4-1-2 とりくみのきっかけと今後の方針

平成 17 年 4 月 29 日の「どっぷり昭和町」というお祭りの時に、30 年間以上続いている地域の落語会「田辺寄席」が、寺西家で行なわれたのが、きっかけとなった。

平成 20 年 6 月からは、毎月 1 回「田辺寄席」が行われるようになった。この場合は、入場料(一般 1500 円)をとって行っており、田辺寄席の会員や落語ファンが中心となる。

今は落語ブームといわれているが、実際に生の落語を観に行く人は、そんなに多くない。特に、小学生には、古典落語は、理解できないと思われている。しかし、小学 5 年生で天才落語家といわれるりりん亭りん吉さんが、古典落語をするということで、小学生にも入り込める世界ではないかと考えられた。

面白かったので今後もして欲しいとの声もあるが、プロの落語家なので、ボランティアの面が多いとはいえ、全く無償というわけにはいかない。特に、上方落語の場合、太鼓や三味線などのお囃子などの人も必要であるので、落語家 4 人出演した場合、芸能関係者が 6



林家染左「時うどん」



りりん亭りん吉

人程必要である。それに、舞台設営などや受付にも人が必要になるので、合計 10 数人がかかることになる。繰り返して行うには費用面の検討が要る。

4-1-3 子供や親の感想・意見に学ぶ

子供の感想

<調査方法とその概要>

落語会当日に用紙を配布し、書ける人は、その場で、そうでない人には、持って帰ってもらい記入した後に、寺西宅のポストに入れてもらうことにした。その結果、ご両親から 14 通、児童から 7 通の回答をもらった。約 3 割の回収率であった。

これらのご意見をみて、気付いた概要をまとめてみると、次のとおりである。

1、登録文化財 寺西家での開催について

伝統芸能を登録文化財という建物で行われたことにあたたかみを感じられた。

特に、ホールなどと違って狭い部屋で、落語家の息づかいや顔や手などのしぐさの表情が手に取るようにわかるので、親しみやすく、一層面白かった。

2、小学生その両親等を対象にしたことについて

小学生は、生の落語会に入れて貰えず、聞く機会がない場合がほとんどなので、非常に喜ばれた。

特に小学生同士が集まって聞く機会はないので、大人の間交じって聞くのとでは、又違う雰囲気になり、素直に聞くことができたようである。

親子で聞くことで、無意識のうちに親子の共通の話題ができる。

3、落語の面白さについて

古典落語は、時代背景が違うので、理解が難しい面があるが、今回は、特にそれらの説明をわかりやすくしてくれたので、面白さが理解できた。この意見は、子供だけでなくご両親からも多く出された。

落語の面白さは、言葉での表現だけでなく、それが仕草と一致する面白さを、表現してくれたので、納得できた。そのことで人と話すときの表情や態度がいかに重要かという事が理解できた。

2才や3才の子供でも、声をあげて爆笑しているのは、落語家の表情がいかに面白かったかということであろう。

落語家との語らい

Q1、染左さんは弟子入りして、どれくらいで高座に上がられましたか？

A1、私の場合は、3か月で上がりました。

Q2、古典落語で、東京と大阪で内容は同じで演題は違うことがありますが、こんなことはあるのですか。例えば大阪では「時うどん」ですが東京では、「時そば」だったと思いますが？

A2、こんな質問をされるあなたは、なかなか通ですね。その土地柄に合わせて、変えることは、あります。

Q3、文太師匠のうどんを食べる仕草をしていただけませんか？

A3、では、狐うどんを食べる場合です。これが、三角形の揚げの入ったものを食べる仕草です。次は、そばを食べる仕草です。違いがわかりますか？実は、一緒です。(笑い)

4-1-4 所有者・実施担当者の所見

落語を見て、聴いて、大人も子供も爆笑していた。子供にとって古典落語は難しいと思っていたが、それは、言葉で内容を理解するものだと思っていたからで、子供達は、そのしぐさの一つ一つ

と合わせて、爆笑していた。

特に、町家ですということ、落語家との距離が無く、顔の表情、手のしぐさなどが、手に取るようにわかるという利点がある。

子供達は、前の方に座り、親は、後の椅子席と別れたが、落語家からは、それが良かったといわれた。親と子が一緒だと、親が解説したりする場合があります、子供が、子供の感性で聴くことができないことがあるという。

人間の進化をみても、口で伝えることが、最初で、文字がその後でできている。同じ、言葉でも、その言い方、語調で相手への伝わり方が、全く違ったものになることすらある。パソコンのメールでは、伝わらないことが、多くあることを知った。

4-1-5 両親と子供の感想・意見

両親の意見

以下に両親の意見をアンケートの項目ごとに列挙する。

1. 今回の取組みは、学校教育との関係でどう思われましたか。

文化庁と文科省の垣根もあるので、難しいかも知れませんが、教育の中に取り組みされた方が良いのではないかと思います。

落語は文化的なもの、学校教育でももっと取り入れて行くべきと思います。

日本の良き伝統文化を伝承していくカリキュラムが学校教育の中で無くなっていく今日、学校外の取り組みとしてこのような催しがなされたことに大いに賛同を感じます。

身近なようでなかなか聴く機会がない子供たちもいる中、大劇場とは違って、落語家の息づかいを感じられる距離で落語を「体感」し、非常に良かったと思います。学校の勉強では得られない「日本の伝統文化に触れる」という事が子供たちも経験できました。

今、落語に興味をもっている子供が増えているようですが、古典芸能で一番身近で入りやすいのが落語の様に思われます。時代の流れで、ゲーム等で遊ぶ子供が多くなって来ておりますが、落語の話を通じて日本の文化、人間の知恵、悲哀、滑稽さ、愚かさ、さまざまな事を学んでほしいと思います。人と人との触れ合い、関わり合いが人間形成に大切な事と思います。古典芸能を通じて逞しく育てて欲しいと思います。

子供に見る機会を与えることになるので、とてもよいと思う。普段は小学生だと遠慮してしまう。

実際には、見えていない物を空想する力がつくと思いました。人と話をする際に、よりわかりやすく説明する力がつくのではないかなあ～と思いました。

実際に小学生の児童が演じている場も見ることができ、落語に限らず、子供たちが興味のあることに取り組んだり、将来のことについて考えたりする良い機会になったと思います。

子ども達にもわかりやすくはなして下さって、とても楽しく聞かせていただきました。ありがとうございました。

伝統芸能を学ぶことで歴史の学習に役立つ。

文化の継承に役立つと思うので良い試みと考える。

古い民家を味あわせて貰えるのが嬉しいことです。

もともと身近な娯楽であったと思われる落語をこういった寺西家の環境の中で、親と子、おじいちゃん、おばあちゃんといった家族で楽しめるのは最高だと思います。

2. 今回の取り組みについての感想をお聞かせください。(教育的効果も含めて)

子供たちが日本の伝統文化を知るのに大変良い企画だったと思います。特に同世代の「りんりん亭りん吉さん」のお話は、自分たちもやってみたいと言う気持ちをお子さん達に与えたのではないかと思います。

演者の中に子供さん(りん吉さん)がおられるのも、子ども達には身近なものと感じられたはずです。楽しいことは、自分の一番好きな人(親など)と共有するのが一番大切で、何にもまして価値のあることだと思います。生の芸を生の声、生のおはやし、生の息づかいを感じることができて最高だったと思います。子ども達の笑い声がひびいてよかったです。

子供が落語をじっくり聞けば、聞くこと話すことにもつながり、大変、良いことだと思います。きっと落語好きな子が何人か生まれると思います。

「時うどん」の導入についてのわかりやすい説明がわかりやすい言葉で子供たちに話されたことは素晴らしいことでした。導入部分があったので古典をそのまま子ども言葉にしないで与えていることがよかった。言葉のもつリズムと雰囲気子どもに記憶の中に残っていくことが大切だと思われました。

「時うどん」は特にイメージの楽しさがある。昔の時の説明があり、非常にわかりやすかった。以前にも「時うどん」を聞いたが、その時は、昔の時刻説明がなかったので、いまいちわからなかった。

都市部に住む子供にとって、今回の会場であった寺西家は登録文化財という非常に貴重な住宅を訪問するという事もありました。身近に落語を聴き面白い所は大声で笑い、話を聴く所では皆集中して聴くまなざしは真剣そのもので、大人から見てもやはり小学生から文化に触れることの大切さを痛感しました。

2才と3才の子供たちもお話の内容を理解しているのかは、わかりませんが、皆が笑っている空気が楽しくて大笑いしていました。もちろん初めて落語を聞いたのですが、とても良い体験をさせてくれたと思います。

テレビと違って実際にみるのは、いいことだと思う。舞台でなく寺西家というのもよかった。

落語家の方が演題の時代背景を説明してくれたので非常に有意義であった。

準備に携わった方々は本当にご苦労が多かったと思います。お疲れ様でした。このような日本の伝統を身近に感じることができる機会が日本の子供たちにとってとても重要だと思います。今後もぜひ続けていってほしいです。

子供達に落語の良さが伝わったと思う。

3. 今後のご希望など、ご自由にご記入ください。

親子落語を来年も継続してほしいです。

私自身も初めて、(TVとかではありましたが)生で落語を聞いたのですがこんなにおもしろいとは・・・思いませんでした。

子供向け落語を定期的にしてほしい。

落語だけでなく伝統文化に出来るだけ数多く子どもたちにふれさせてやっていただきたいと思っています。

PTAだけでなく、町会の広報などでもっと広く知らせると良いと思います。

子供の意見

1. 落語を聞いて、見てどう思いましたか？

落語は、これまで何度もききましたが、友達といっしょに聞くことができ、とてもおもしろかったです。何回もきいたことがありますが、おはやしの紹介、最後の質問コーナーなど新たにたくさんを知ることができました。寺西家のように昔からの古い家で落語をするのは、あたたかみがあり、ホールでするよりとてもいいと思いました。

去年から毎年やっている「どっぷり昭和町」という地域イベントで落語を寺西家でやっていて、私自身、それで落語をはじめてきたので、今回のようなイベントで落語を好きになった人もいます(小6)。

落語を目の前で見るのは初めてだったけれども、とても、したしみやすいお話でした。一人が二人の役をするのは、とてもむずかしいことだと思いますが、きりかえがとても上手でした。たぶん私ならできないと思います(小5)。

お題にそって話をしている所がすごかったし、うどんを食べる所が音も「ずるずる！」となって、すごいし、おもしろかった。私と同じくらいの年なのに落語をしている。できるのがすごかったいいと思いました。あのお話を作っている人は、もちろん話をしている人だろうなと思いました。ほんとはどうなんでしょうか？(小5)。

おもしろかった。おもしろかったところは、「時うどん」で二度目に屋台にいったところ。(小)

おもしろかったです。としなどにかんけいなくわらえるのでとてもよかったです。しつもんコーナーもいろいろなことが知れてよかったです。落語をあんな目の前で聞くのは、はじめてだったのでとてもうれしかったです。また聞きたくなりました(小3)。

おもしろかった(小3)。

それまで難しそうなイメージを持っていましたが、聞いていると「ときうどん」などのように、わかりやすくおもしろい話もあることがわかり楽しかったです。身近な場所で落語を聴くことができ、いい経験になりました(小3)。

なん回もらく語をみたことがあります。いつもよりらく語をやるのがすくなかったけど、友だちもいてたのしかったです(小2)。

2. 今後、どんなことがして欲しいですか？

今回のように、落語をしたり、日本の伝統文化で他のことを寺西家でしてほしいです。(小6)

苗代子ども広場で落語をして欲しい。落語会をしてほしい(小5)。

落語をするときによく使う動作などを実さいに体験できる教室などをして欲しいです。(小5)

アニメの落語(小4)。

とくにありませんがあそこで落語をまだまだやってほしいです。それともっといろいろな人にやってほしいです(小3)。

5. 兒山家住宅

5-1 兒山家住宅—東陶器ステキ発見

5-1-1 事業の概要

事業の実施日と参加者と実施方法

堺市立東陶器小学校 平成 21 年 10 月

地域探検、畑から家全体を見て説明と質問 10 月 9 日(金) 4 クラス 119 名 教員 4 名

ナヤ・ミュージアム見学と芋ほり体験 10 月 15 日(木) 24 名 教員 2 名

展示室の唐箕など農具の使い方、伝統工法の土壁塗りの方法の説明。

土壁の再生についても解説する。

畑での落花生の実のつき方の説明と芋ほり体験。

へっついや屋根裏などの内部見学と発表のための質問 10 月 19 日(月) 生徒 8 名 教員 1 名。

子供たちに特に伝えたかったことなど

地域に伝統的な建造物が残っていることを知ってもらう。

堺市では数少ない自然環境が残っている地域なので、土に触れ、自然や景観保全に関心をもってもらおう。

伝統的な生活の伝承とそこから、エコについても学んでもらう。

5-1-2 とりくみのきっかけと今後の方針

兒山家の子供の通っていた東陶器小学校では、3 年生で地域の暮らしを学ぶ授業があり、約 20 年前、筆者兒山の長女と次女が在学中に、数回、生徒の見学の受け入れをしたことがあった。

その後、「国際理解講座」や「陶器川の昔」について、学校および「のびのびルーム」から講師の依頼があり協力させてもらった。

兒山家住宅が 2001 年に登録文化財になり、2004 年地域の歴史や伝統的なことを学び、現代に通じるエコを考える、みんなで作るミュージアムとして「ナヤ・ミュージム」を立ち上げた。その後、継続的に依頼があれば、生徒の見学を受け入れているが、今回はより深く体験を出来る取り組みを行った。

5-1-3 子供たちと先生の感想・意見に学ぶ

5-1-5 参照

5-1-4 所有者の所見

小学 3 年生で地域の歴史を学ぶので、取り敢えず見学ではなく、先生方自身がとても興味を持って取り組まれて、体験もでき、とても良かった。

子供達の目で撮った写真など、子供の視点も興味深い。

次代の担い手なので、その子供達に文化財の存在を知ってもらうことがまず重要だと思う。

先生方も、その後休日に兒山家住宅の文化財活用の取り組み「ナヤ・ミュージアム」の土壁塗りワークショップや伝統野菜プロジェクト「楽畑」に参加して下さっており、お互いの協力が継続できるようにしたいと思う。



手押しポンプで水汲み

5-1-5 生徒と先生の感想・意見

子供の感想

3年1組

とうき川のステキをうまくまとめることができました。

どうぐのステキ畑たいけんさせてくれてステキおしえてくれてステキエコでステキをいっぱい見つけました。

むかしのことのステキをいっぱい見つけました。

ひみつとか、いろんなことがすごくわかりました。

兒山ていのことをいろいろ勉強できました。

道具、ひみつのステキをいっぱい見つけました。「東とうきステキ発見」の総合学習ができました。

むかしのいえのなかみをみせてくれてとてもうれしかったです、ほかにも、むかしのどうぐをみせてくれてとてもうれしかったです。また、いかしてもらいます。

3年2組

ナヤ・ミュージアムに昔の農具がいろいろおいてて、昔の農具のことがいろいろ分かってよかったです。

そうごうで、兒山ていのひみつしんぶんを、さいごまでかけました。しんぶんをかくのにととてもやくだちました。いもほり、たのしかったです。

兒山ていが、えどじだいの家だとおもいませんでした。これからも、こやまていを、まもってください。

あれからインターネットでしらべてみたら、ぶんかざいになったんですね。とてもすばらしい家ですね、これからもいろいろなことをしらべます。

ぼくは兒山さんの家は、100～200年もたっているのをしってびっくりしました。

せつ明が分かりやすくてうれしかったです。

しんぶんの名前は「兒山と虫しんぶん」と名前をつけました。200年のきやカマキリのたいちょうや、たかさやおもさもくらべたり、しらべたりできるようになったのも兒山さんのおかげです。でも昔のものをぜんぶもっている人のほうがもっとすごいとおもいました。

兒山ていには「ひみつ」や「れきし」が、たくさんありました。

昔の物があるとは、思いませんでした。兒山さんのおかげでとうみやカヤの実を教えてくれてあれから図かんでしらべました。

兒山ていのことがいっぱいわかりました。ひみつもいっぱいわかりました。

ぼくは、今、いろいろなことを調べています。道具のことをまた教えてください。

先生の感想

堺市立東陶器小学校3年生担任教員（見学対象者 小学3年生3クラス、119名）

1. 取り組みの学校教育の中での位置付け

小学校3年生の教育課程の中には、総合的学習の時間があり、本年度は95時間となっています。

3年生は、社会科や2年生の生活科の関連もあり、子どもたちの身近な地域を取り上げました。自分たちが住んでいる地域に興味を持ち、自然・文化・人と関わることを通して、地域のよさに気づ

き、地域の一員としてかかわっていかうとする子どもを育てたいと考えました。単元名は「東陶器ステキ発見」～自然・文化・人を見つめて～です。子どもたちは、まつり・自然虫・公園・花・幼稚園・昔の家・陶器川と大きな木・月輪寺・陶荒田神社のグループにわかれ、課題を見つけ解決していきました。「昔の家」が大事にされ、活動が広がっていることを子どもたちはステキと感じています。

2. 取り組みについての感想（教育的効果も含む）

今回の学習は、子どもたちが、地域のよさに気づき、地域の一員としてかかわっていかうとすることが大切であると考えています。一人ひとりが見つけた「ステキ」をグループで出し合い、仲間に分けることでステキって何？が見えてきました。ステキとは、人の思いのこもっているもの、歴史があるもの、きれい、きたないという外見ではなく、中身であるなど、子どもたちは考えることができました。こやまさんのおうちの見学や、お話から、私たちが大切にすべきものが見えてきました。このようなものの価値観を考えることができたことは、地域を通した課題解決学習の成果であり、こやま邸見学から生まれたものであると思います。新しいものの見方を生み出す思考力が育ってきつつあると考えています。

3. 今後の希望

今回の総合的学習の時間に地域学習ができたのは、地域の皆様の子どもたちに対する暖かい協力の賜物であったと思います。本当に感謝しています。これからも地域に住む子どもが、自分の地域を知り、地域の一員として関わっていけるよう、これからも教育活動にご協力いただくと子どもたちの力が一層伸び、よき地域の担い手となるよう成長すると思います。今度共よろしくお願ひします。

5-2 兒山家住宅ーナヤ・ミュージアム見学と堆肥作り体験

5-2-1 事業の概要

事業の実施日と参加者

堺市立福田小学校 平成 22 年 2 月 2 日、16 日実施

2 クラス 80 名 引率者 2 月 2 日(火) 3 名、2 月 16 日(火) 4 名

事業の実施方法

(1 回目) 2 月 2 日(火)

1 組と 2 組とが交代で、ナヤ・ミュージアムの見学と畑での堆肥作りをした。

ナヤ・ミュージアムでは第 1 展示室の昔の農具を中心に、見学し、井戸水のところにも人員を配置して、井戸水を手でポンプをおしてくみ上げ、水道水との温度の違いの体験もした。

畑では、庭の落ち葉を集め、生徒達が持ってきた自分が食べたミカンの皮や、米ぬかなどを囲いの中に入れて、それを混ぜて、数人が、長靴で踏み固めた。長靴は交代で履き換えた。



堆肥作りの体験

(2回目) 2月16日(火)

前回同様1組と2組交替で、ナヤ・ミュージアムと畑の組に分かれた。

畑では前回自分達が持ってきたミカンの皮などがどうなっているかを学び、堆肥の切り替えしと落ち葉集めを行った。

ナヤ・ミュージアムでは、2週間の間に調べてきたことの質問と自分のテーマの道具のスケッチをした。「矢立」を調べている生徒には、特別に蔵から出してきて、本人に管理責任者になってもらった。「へっつい」さんも全員では家に入れないので、当家のおばあちゃんが2名を案内した。井戸の手押しポンプや納屋の屋根裏などは希望者が体験した。

特に伝えたかったことなど

今回の小学校は、少し離れた住宅化されている地域の児童なので、まずはこういう伝統的な建造物があるということを知ってもらいたかった。昔の農業の道具を見るだけではなく、自然を感じ、堆肥作りで環境にも目を向けて欲しいと思った。

5-2-2 とりくみのきっかけと今後の方針

10月11日に掲載された朝日新聞「まちぶら」を見られた3年1組担任の芦田先生が「社会科」と「総合的な学習」の場として見学させて欲しいと依頼してこられたのがきっかけである。

これまで学区内の東陶器小学校の生徒の見学も受け入れた経験があるので、スムーズに受け入れられた。福田小学校は隣の学区ではあるが、徒歩30分圏内でもあるし、宅地化がより進んだ地域なので、伝統的なことの理解のためにも、今後も受け入れて行きたいと思う。

各展示室や実際に道具がどう使われたかなどの説明に、今後は地域の老人会の方との連携ができたらと思う。

5-2-3 先生の感想・意見に学ぶ

II章、5-2-5参照

5-2-4 所有者・実施担当者の所見

福田小学校は初めての取り組みであったが、2回のプログラムにしたのは良かったと思う。1回目はこういう場所に昔の建物や道具があるというだけで、生徒には驚きだったのが、2週間後に生徒自身でも調べ関心を持ち、また、自分の生ゴミがどうなるかなどを実際に体験したことは貴重だと思う。その後、学習参観日で、発表するとのことで、生徒たちだけではなく、保護者への理解も深まると思う。

5-2-5 先生の感想・意見

先生の感想

堺市立福田小学校 芦田久 (対象者3年生2クラス、80名)

1. 取り組みの学校教育の中での位置付け

社会科の「昔の暮らし見つけた」総合的な学習「地域のことを調べ、自分の住んでいる地域に誇りを持つ」という両方の学習で、地域の人々の生活を実際に見学させてもらって、学習した。

それを基にして、もう少し詳しくインターネット等で調べた。そして、今の自分たちの生活と比較し、わかったこと、思ったことを発表した。

2. 取り組みについての感想 (教育的効果も含む)

児童にとって、昔の暮らし、生活、道具、住宅は身近になくて、なじみのないものである。イン

ターネット、本、聞き取り、どの手法をとっても、実際に見ていない、触っていない、使っていないので興味を持たず、学習への意欲が低い。そこで、「ナヤ・ミュージアム」で実際の昔の道具を見せてもらったり、触らせてもらったり、使い方を教えてもらったりして、昔の生活の様子や先人の働きや苦心を考えることができたと思う。このことがもとになって、子どもたち全員が、自分たちの今の生活と昔の生活を比べることができたと思う。

3. 今後の希望

今回は、昔の道具を見せてもらったり、触らせてもらったり、説明をしてもらった。地域の多くの方々に、来ていただき、とてもありがたかった。モノだけでなく、昔の農業である「有機肥料づくり」も体験させていただき、昔の生活の様子も子どもたちが理解できてすごくよかった。無理を言って受け入れていただき、ありがとうございました。

ただ、このようなすばらしい施設・道具を今後も維持していってもらいたいので、行政の支援が大切だと思った。

生徒の感想

①こないだはいろいろなど昔の道具をみせてくださってありがとうございました。ひりょうづくりもおちばひろいものしかかったです。昔の道具をいっぱいしました(3年2組女子生徒A)。

②ナヤ・ミュージアムでいろいろな道具をみせてくれてありがとうございました。ぼくはテレビをしらべて、昔のテレビでわかったことは、おしてチャンネルをまわすのではなく、まわして、チャンネルをまわして、みていたのだなあーとおもいました。ありがとうございました(3年2組男子生徒B)。

③ナヤ・ミュージアムではありがとうございました。ぼくが一番たのしかったのは、いどの水をくむのです。いどの水をくむのが重かってびっくりしました。あとくわも重かった(3年2組男子生徒C)。

④ナヤ・ミュージアムは200年前の家だったからびっくりしました。こんないっぱいあったからびっくりしました。いろいろな道具見せてもらってありがとうございました(3年2組男子生徒D)。

6. 南川家住宅

6-1 南川家住宅一小学生の昭和初期の生活体験学習

6-1-1 事業の概要

事業の実施日と参加者

貝塚市立津田小学校 平成22年1月20日実施、3年生2クラス50名、引率教員：3名

貝塚市立北小学校 平成22年1月26日実施 3年生3クラス83名、引率：5名

貝塚市立二色小学校平成22年2月9日実施 3年生2クラス54名、引率教師3名、介助員1名、地域の方12名

事業の実施方法

①津田小学校

児童を6グループに分ける。6つのブース(卓袱台、生活道具、



つるべで水汲み

秤、井戸、炊事場、蚊帳) をそれぞれ 20 分間ごとに回る。

② 北小学校

本校ふれあいルームの方々に協力を求め、博物館を 7 つに分け、その各場所にふれあいの方が 2 名、説明係として付くこと等を事前に打ち合わせ。はかりや井戸、蚊帳、火ばちなど実際に体験できるものは出来るだけ体験を重視するというで依頼した。

③ 二色小学校

1 クラスを 6 グループに分け、6 箇所を順にまわる。それぞれの場所で地域の方に展示物の説明をしていただく。

子供たちに特に伝えたかったことなど

明治・大正・昭和のくらしの資料館は 6 年前に開設した。住宅の内部に昔の道具や昭和 30 年代のくらしを再現し、生活道具を用いた子供の体験学習を行なっている。市内の 3 小学校の 3 年生の社会科授業「昔のくらし」を毎年、1 月末から 2 月に実施し、生徒の指導はその当時の生活を体験した方々をお願いしている。道具類は毎年寄贈してもらったり購入したりしている。



子供たちは蚊帳の中

今ある道具は昔の道具の延長線上にあるもので、この資料館にある古い道具はその祖先であり、暮らしを良くしていこうとする人々の絶えざる努力の結果であることを子供たちに伝えている。

6-1-2 とりくみのきっかけと今後の方針

数年前に、当資料館の情報がたまたま先生方に伝わり、昔の暮らし体験学習実施の運びとなった。その後、今年まで毎年体験学習を実施しており、今後も続けていくつもりである。

6-1-3 子どもたちと先生の感想・意見に学ぶ

6-1-5 参照

6-1-4 所有者・実施担当者の所見

① 津田小学校

学校からは「昭和 30 年代のくらしを、当時の生活の体験者の指導のもとに、当時の生活道具を使用して、総合的に勉強できる」と評価していただいているので、毎年学校と打ち合わせのうえ、実施している。実施に当たっては学校の先生に先に勉強してもらっている。

② 北小学校

校区には古くから残る家屋も多く、生徒がそれぞれのお宅に伺い、昔調べをしていたが、当資料館が昔の道具をまとめて収集所持していることを知って、見学に来られるようになった。校区内の古い家屋の見学はその後も続けられており、昔調べ学習の導入段階として当資料館が利用されている形である。

③二色小学校

社会科の昔の暮らしについての学習に当資料館が活用されている。昔の道具が実際にみられるということで、毎年「町屋たんけん」として、実施している。見学後は見てきた内容をグループでまとめ、発表している。

6-1-5 先生の感想・意見

「昭和 30 年代の町家に設定された建物の中に当時の生活道具が配置され、それらを実際に使用されたお年寄りの方々から体験に基づいた話を伺い、生徒がその道具に触れて体験できたことは本当に素晴らしいことであった。今後も館と連絡をとりあいながら、この授業を実施していきたい」というのが先生方の感想である。以下にそれぞれの学校の担当教員の感想・意見を掲げる。

貝塚市立津田小学校 若野雅彦（対象者 3 年生児童）

1. 取り組みの学校教育の中での位置付け

3 年生の社会科学習では、実地に足を運び、直接見て、触れて感じる事が重要である。一学期は、校区の各町の様子を見て回った。二学期では、商業施設を訪れ、店の人から物を売る事についてお話を聞かせていただいた。昔の生活道具について理解するという今回の学習では、町家倶楽部のような取り組みの中で、児童の認識を深めたいと考えた。

2. 取り組みについての感想（教育的効果も含む）

児童の興味津々の瞳を見ている、今回の学習が成功していることを実感する。町家倶楽部が用意してくださった「教材」は分量的にも適当であったし、生活に密着した用具は児童の知的興味を刺激していた。また、井戸では釣瓶体験をしたり、秤で実際にはかってみたり、卓袱台に座って、茶碗を持ってみたりと、「体験」が児童の欲求を満たしていた。

3. 今後の希望

またとない学習の機会になったと感じている。道具について説明を担当してくださったボランティアの方々も工夫をこらしておられた。敢えてこれからのことを考えてみると、展示品をホームページに載せたりして、のちのち学習に使えるようにするのも一つの方法かと感じた。

貝塚市立北小学校 五十嵐雅彦（対象者 3 年生児童）

1. 取り組みの学校教育の中での位置付け

- ・3 年生社会科学習、3 学期教材「人々の暮らしと道具」の導入
- ・体験的学習
- ・ふれあいルームの方々とのふれあいの場
- ・地域学習

2. 取り組みについての感想（教育的効果も含む）

カヤに入ったり、片手でんびんで重さをはかったり、井戸の水をくみ上げたり、実物に触れ体験でき、学習の導入としてとても良かったと思う。

3. 今後の希望

実体験が大切であるから、カマドに火をつけ、ご飯をたくなどが出来ればよいと思う。火鉢でモチを焼くなども考えられる。

貝塚市立二色小学校 神野武史（対象者 3 年生児童）

1. 取り組みの学校教育の中での位置付け

3年生の社会科の授業として実施した。また、総合的な学習の一環として、地元貝塚のことを知るとともに、地域の方との関わり、自分たちの学習を発表したりしている。

2. 取り組みについての感想（教育的効果も含む）

社会の授業で昔のくらしの様子についてお家の人から聞いたり絵や写真で見たりしていたが、実際に実物を見ることが出来るので、とても貴重な体験になった。また、地域の方に実際の経験で話していただいたことで、より、具体的に理解できた。

3. 今後の希望

今後も取り組みを続けていきたい。



大阪府の登録文化財101箇所を掲載した
小冊子頒布中 (頒布価格500円)

大阪府の登録文化財
活用と保存が個性あるまちをつくる 2008
年度版

大阪府登録文化財所有者の会

大阪府登録文化財所有者の会 (会長 畑田耕一)
<http://www.culture-h.jp/tohroku-osaka/>
(事務局)
〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町1-50-25 寺西興一方
TEL 06-6624-7618 FAX 06-6622-8499
E-mail teranishikouiti@yahoo.co.jp